

第1次調査

**(仮称) 狭山市地域福祉推進計画  
市民アンケート調査報告書**

平成26年1月

狭山市、社会福祉法人狭山市社会福祉協議会

# 目 次

第1節 調査の概要	・・・	1
第2節 調査の結果	・・・	2
（1）回答者に関する基本的な情報	・・・	2
（2）暮らしにおける悩みや不安に関すること	・・・	5
（3）家族と身の回りに関すること	・・・	8
（4）ご近所づきあいや自治会活動に関すること	・・・	12
（5）地域活動に関すること	・・・	16
（6）地域団体等が行う福祉的活動の利用に関すること	・・・	19
（7）震災を契機とした今後の活動に関すること	・・・	20
（8）身近に感じる地域に関すること	・・・	22
（9）自由意見	・・・	28

# 第1次（市民アンケート）調査中間報告

## 第1節 調査の概要

### （1）調査の目的

狭山市地域福祉推進計画の策定にあたり、狭山市民の福祉に関する意識及び潜在的なニーズ等を把握するとともに、今後の地域福祉に関する計画のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

### （2）調査対象者

1,996名（狭山市在住の20歳以上の方から無作為に抽出しました。）

### （3）調査方法

郵送配布・郵送回収

### （4）調査期間

平成25年9月20日（金）から10月4日（金）まで

### （5）回収結果

- ① 配布数： 1,996票
- ② 有効回収数： 831票
- ③ 回収率： 41.6%

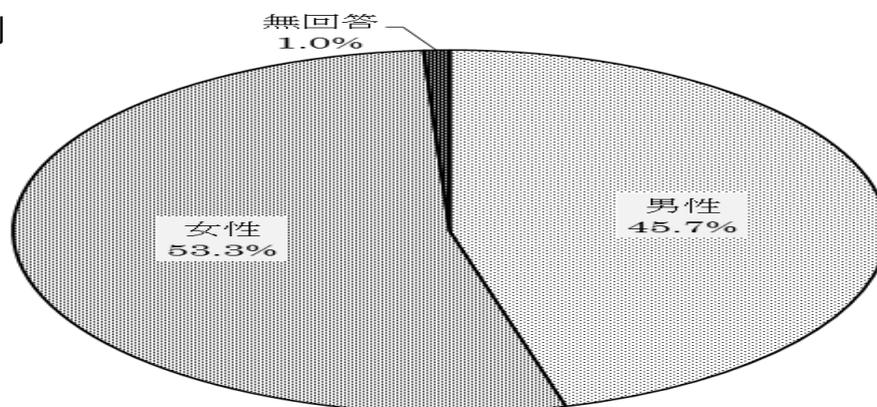
### （6）注意事項

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常の100%を超えます。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがあります。

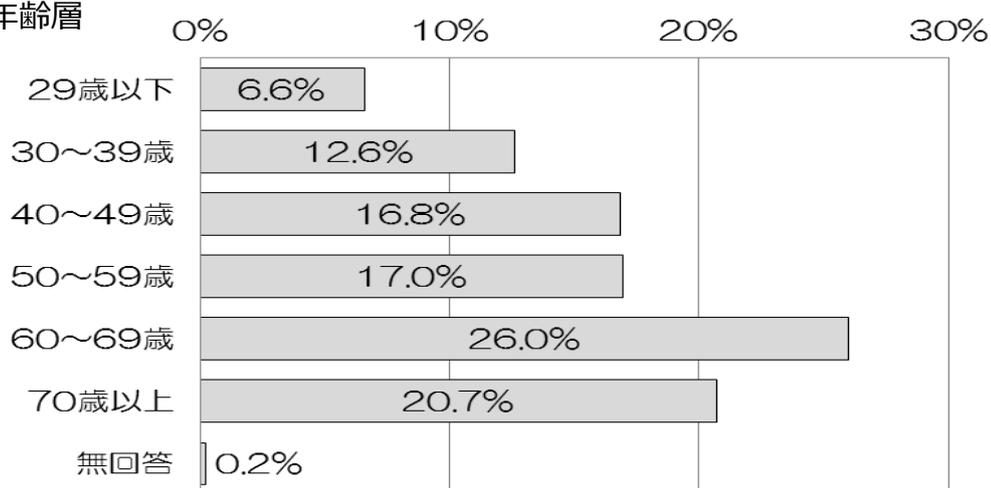
## 第2節 調査の結果

### (1) 回答者に関する基本的な情報

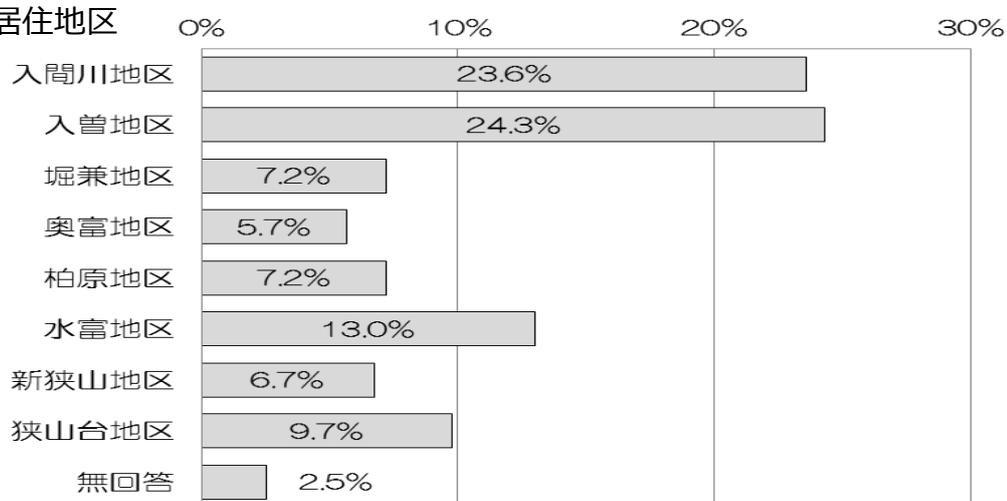
問1 性別



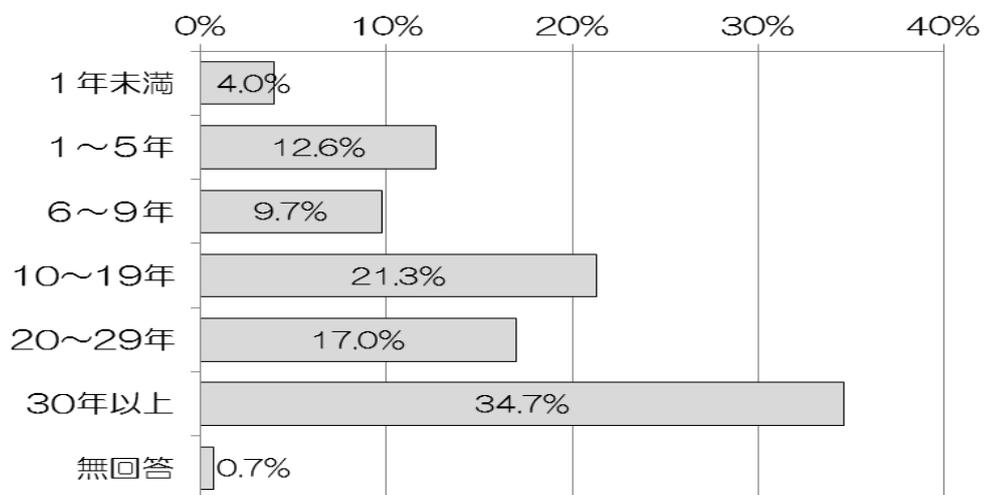
問2 年齢層



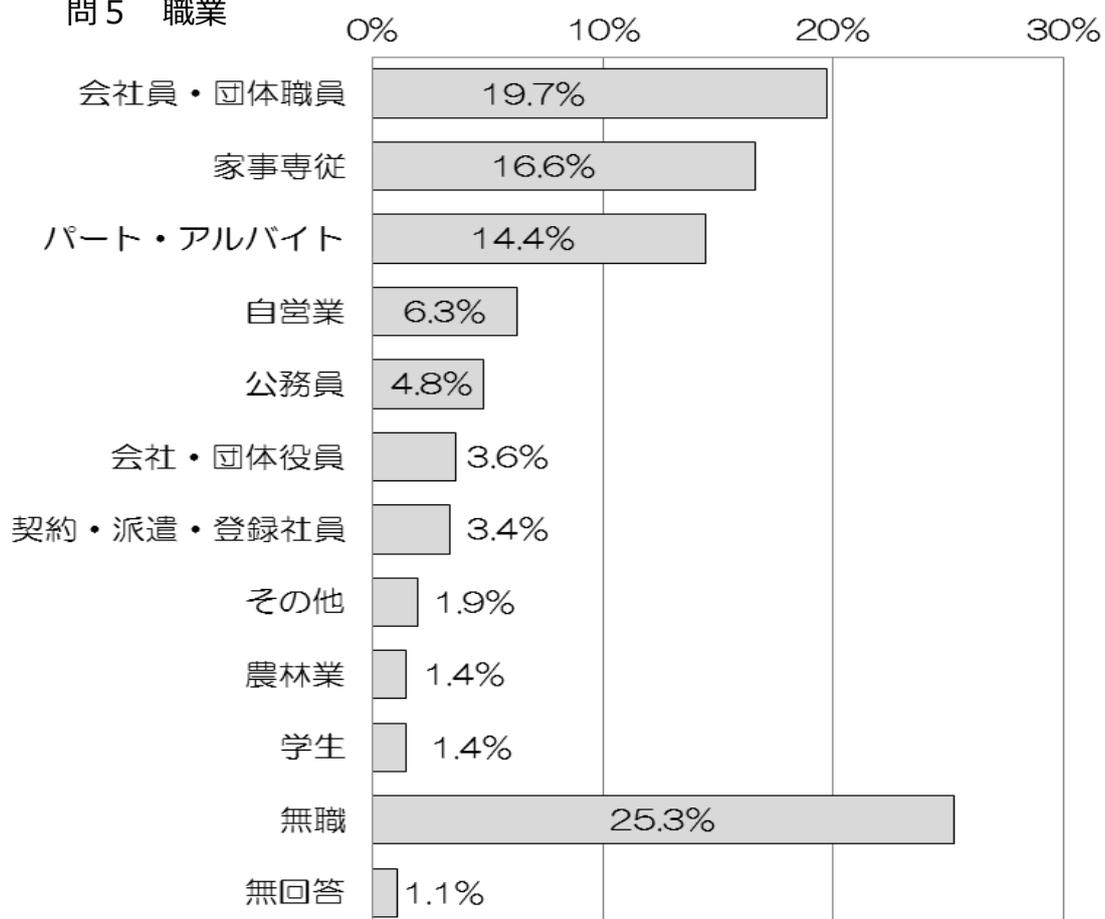
問3 居住地区



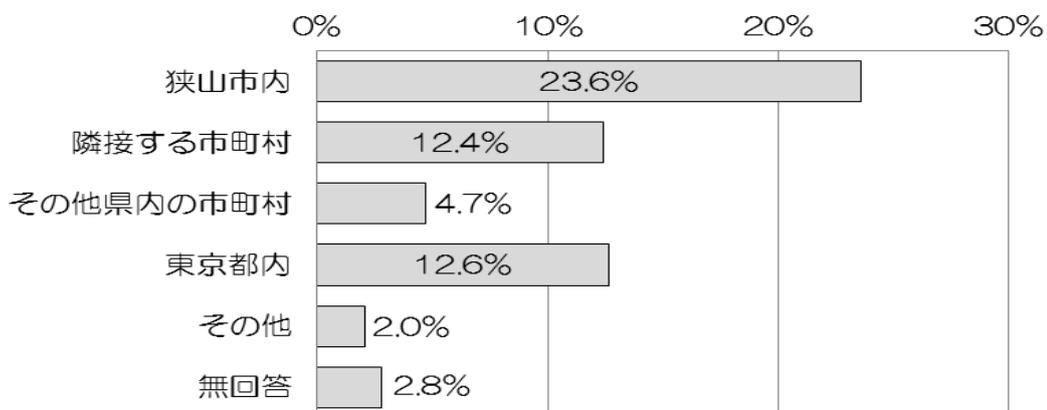
#### 問4 現住所の居住年数



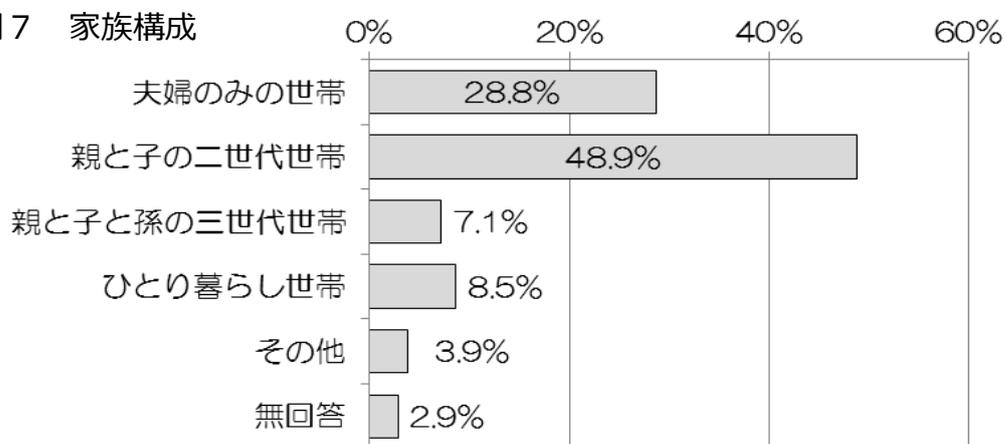
#### 問5 職業



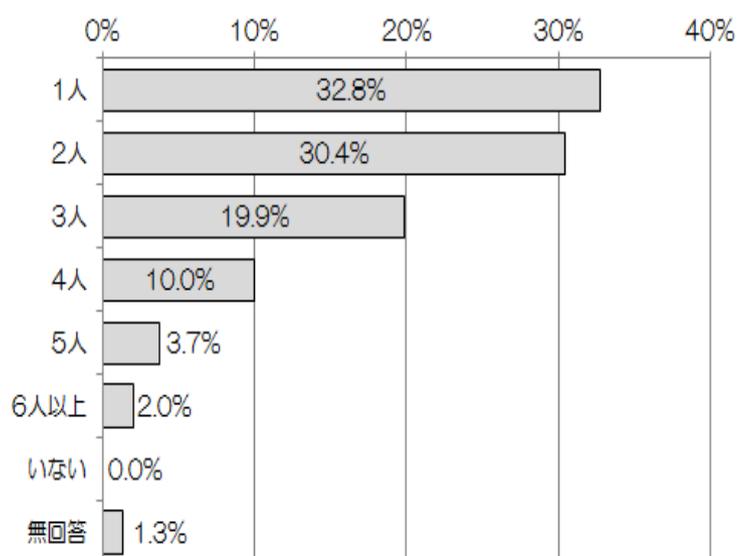
問6 通勤・通学先の場所



問7 家族構成

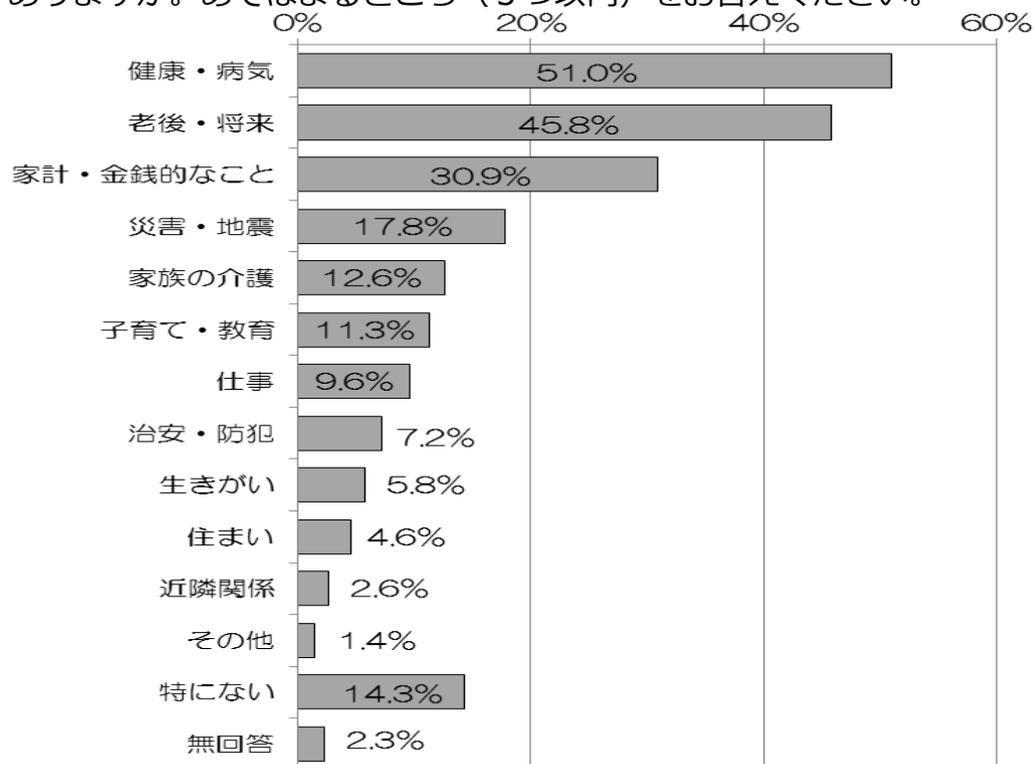


問8 同居の人数（回答者は人数に含めないものとする。）



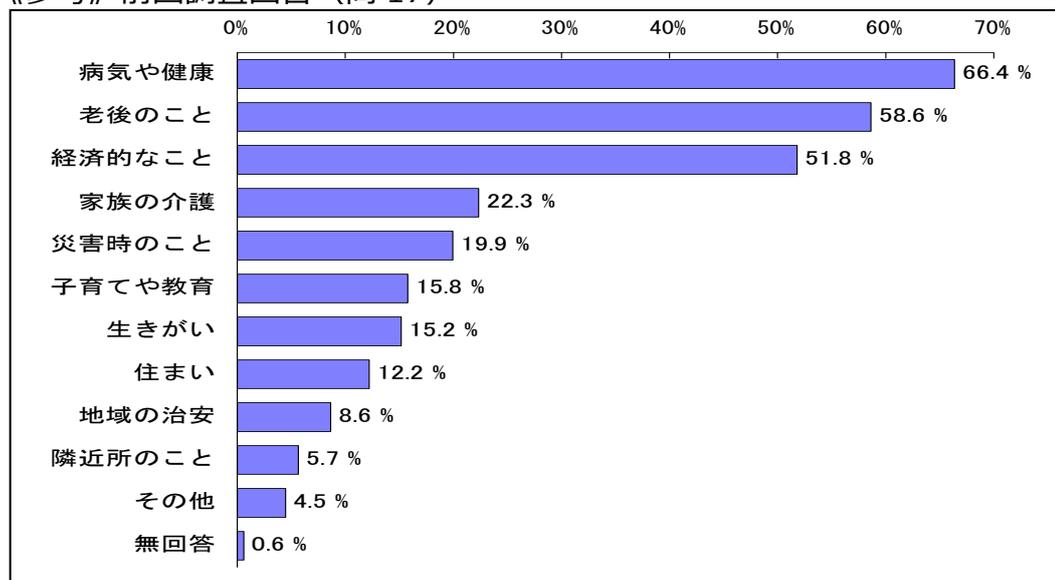
## (2) 暮らしにおける悩みや不安に関すること

問9 暮らしの中で、あなた自身やご家庭のことで、どのような「悩み・不安」がありますか。あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。

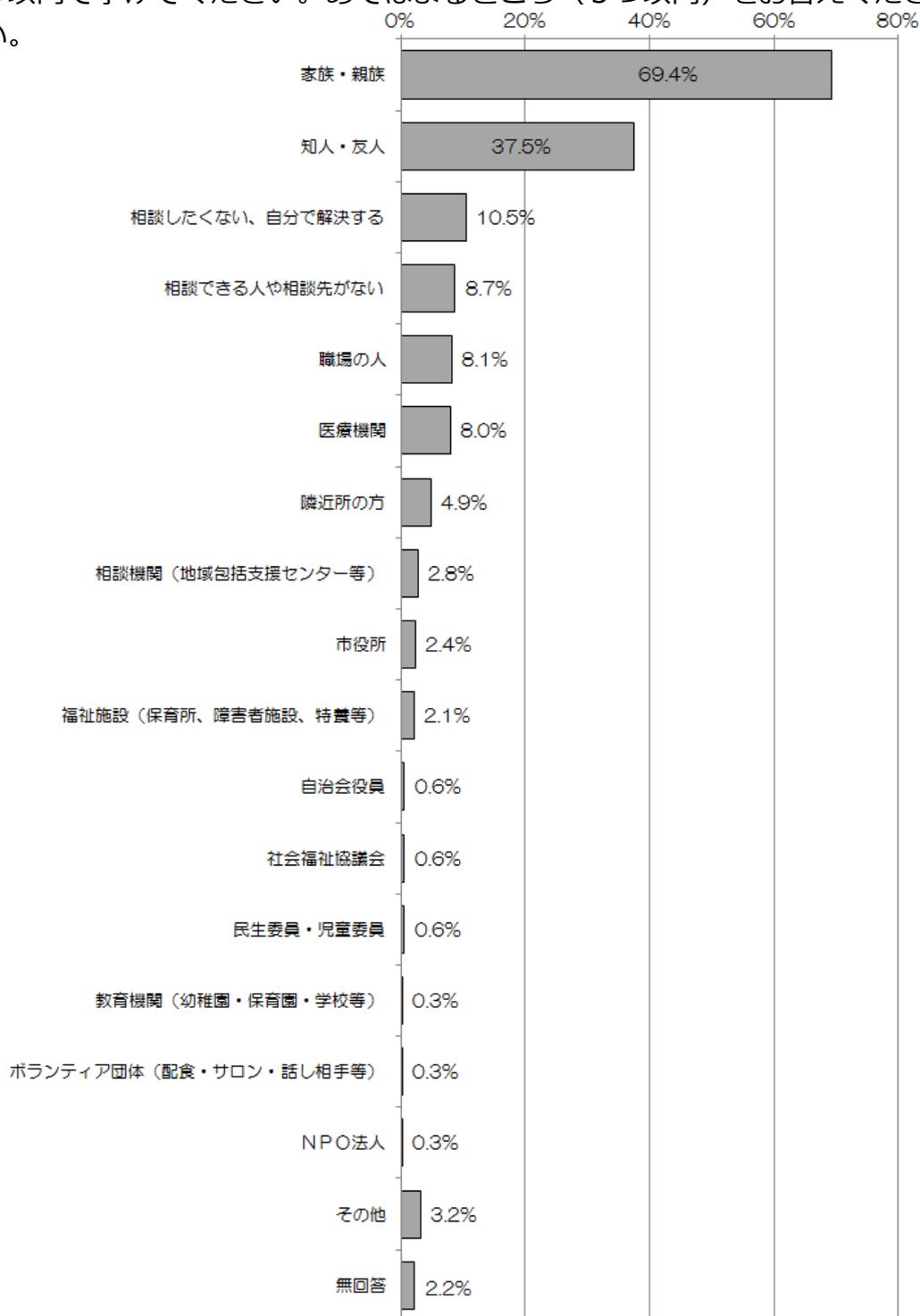


「健康・病気」(51.0%)、「老後・将来」(45.8%)、「家計・金銭的なこと」(30.9%)が高くなっています。  
 なお、前回調査においても、同様の回答が上位となっています。

《参考》 前回調査回答 (問 17)

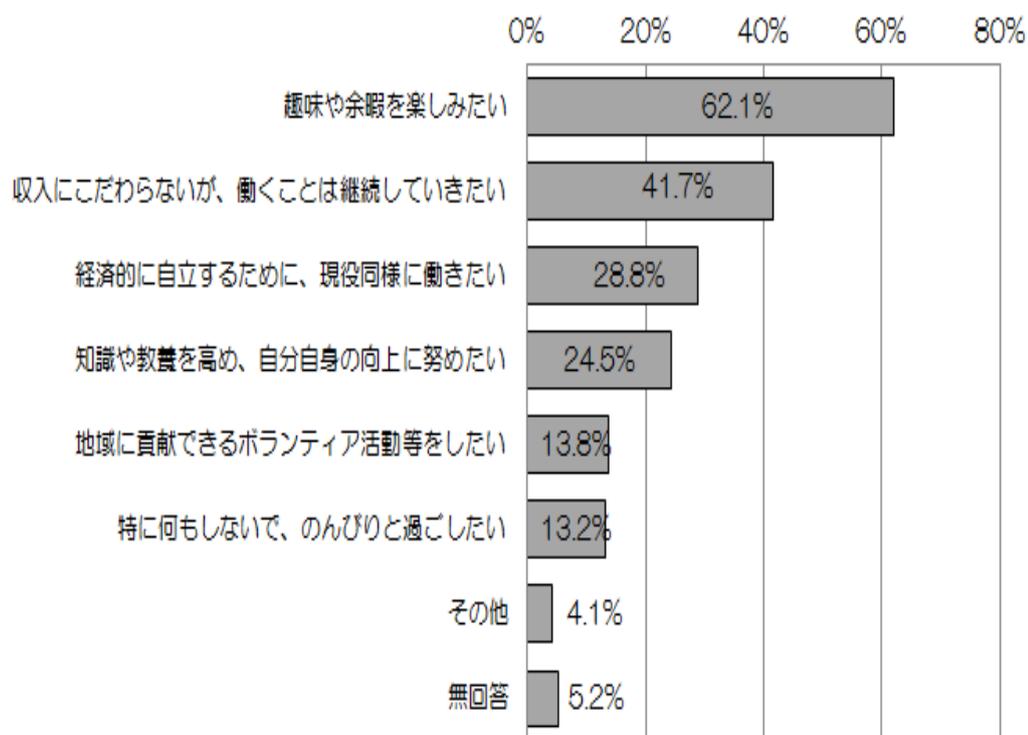


問 10 その「悩み・不安」について、誰に相談されていますか。主なものを3つ以内で挙げてください。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



「家族・親族」（59.4%）、「知人・友人」（32.1%）がもっとも高く、次いで「相談したくない、自分で解決する」（9.0%）、「相談できる人や相談先がない」（7.5%）となっています。

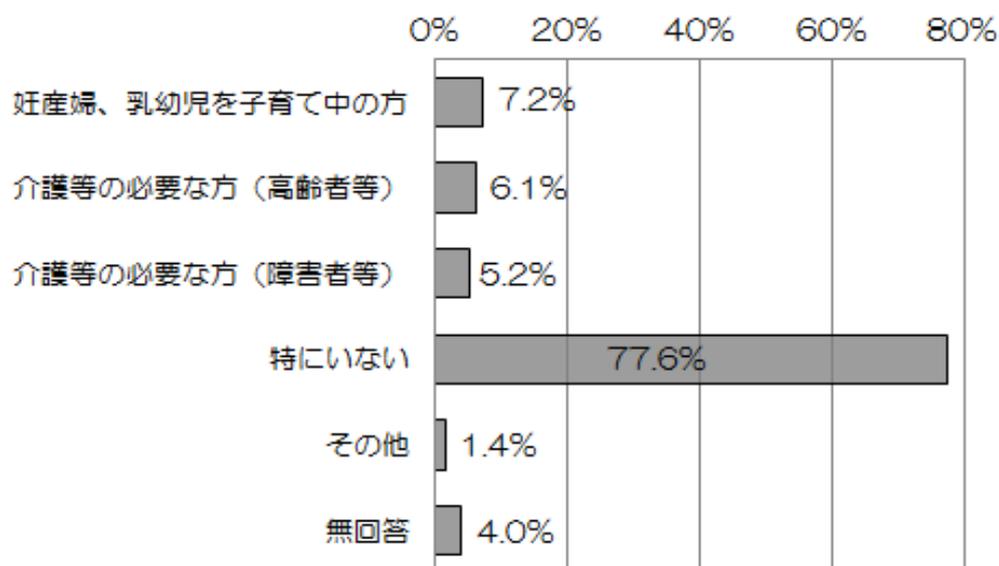
問 11 （この設問は、59 歳以下の方がお答えください。）あなたは、あなた自身が 60 歳を迎えた後、主にどのように過ごしたいと考えていますか。あてはまるどころ（3 つ以内）をお答えください。



「趣味や余暇を楽しみたい」（62.1%）がもっとも高く、次いで「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」（41.7%）、「経済的に自立するために、現役同様に働きたい」（28.8%）となっています。

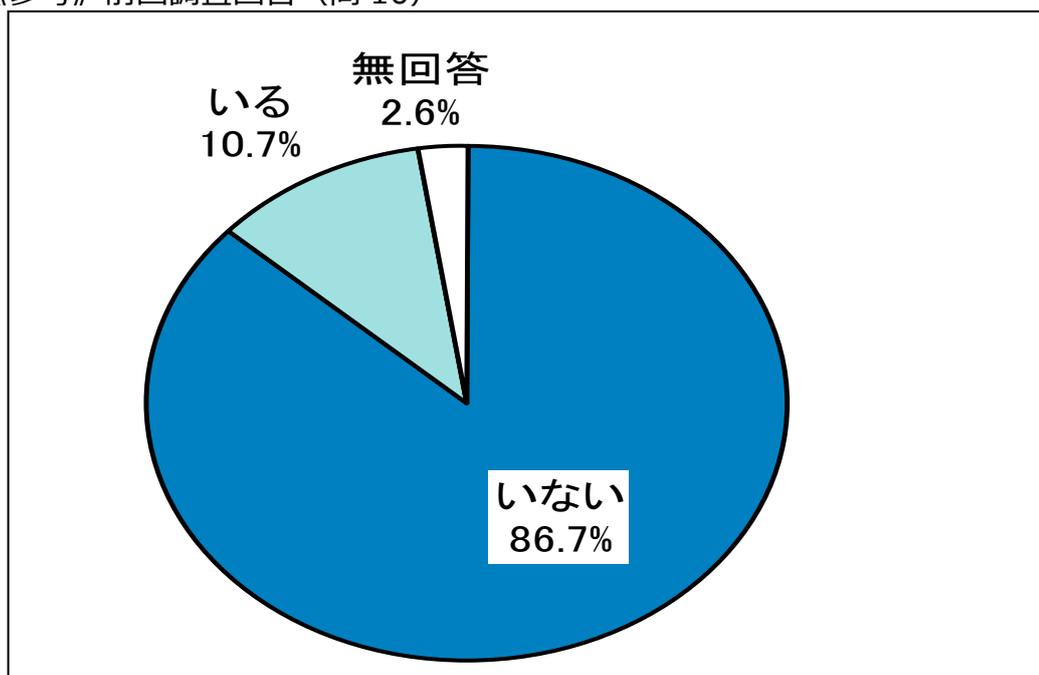
### (3) 家族と身の回りに関すること

問 12 あなた自身、またはあなたと同居されているご家族の中に右表に掲げる方がいますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。

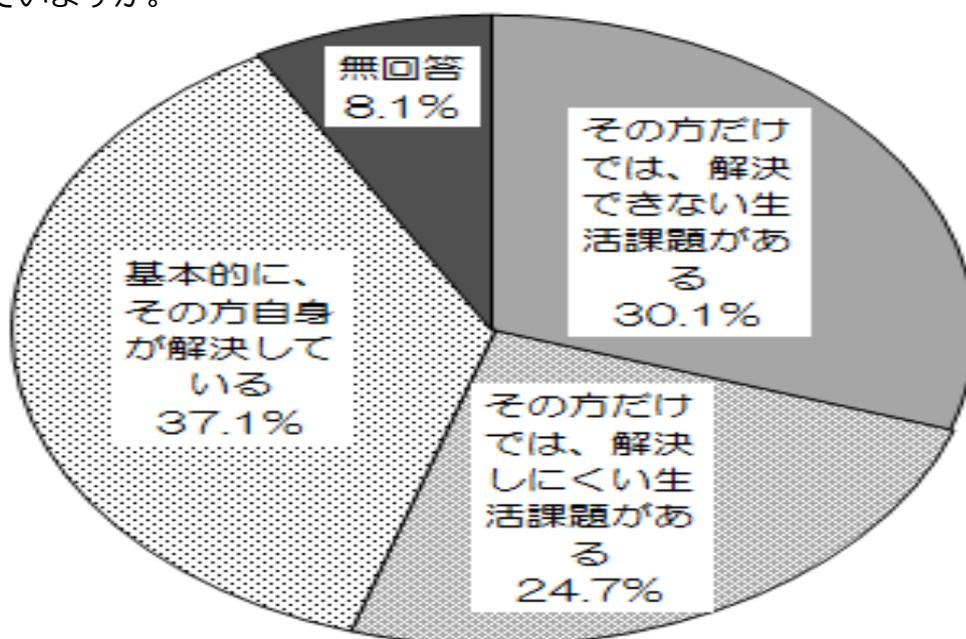


「妊産婦、乳幼児を子育て中」（7.4%）が最も高くなっています。子育て、介護、介助等、何らかの事情により、支援が必要な同居家族がいる方の割合は、合わせて19.0%となっており、前回調査の10.7%と比べ、大幅に増えています。

《参考》 前回調査回答（問 10）



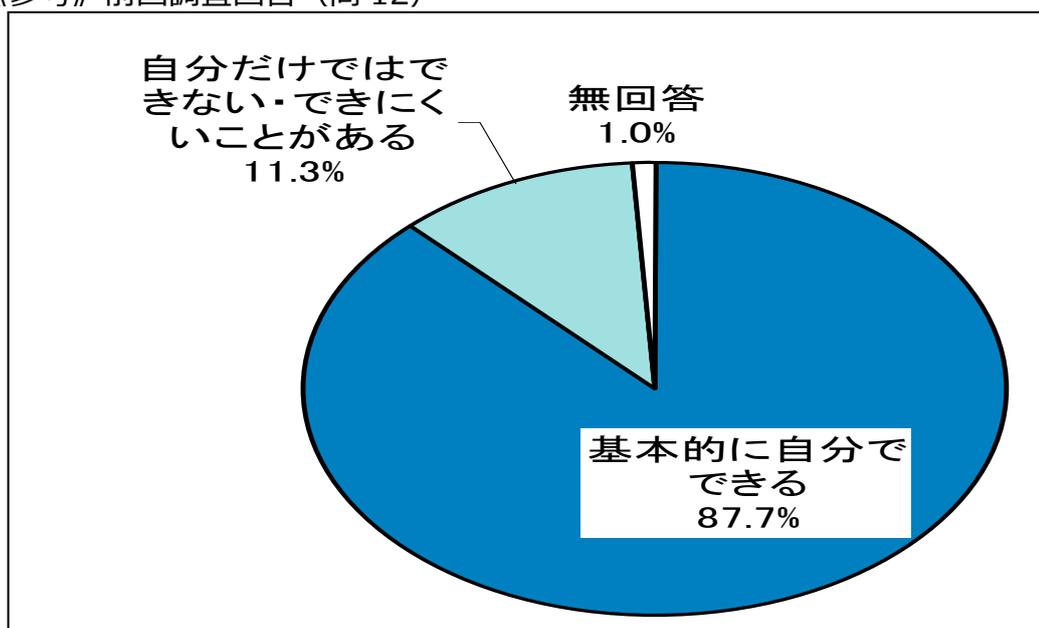
問 13 その方の生活課題（身の回りのことや家事等）は、その方自身が解決されていますか。



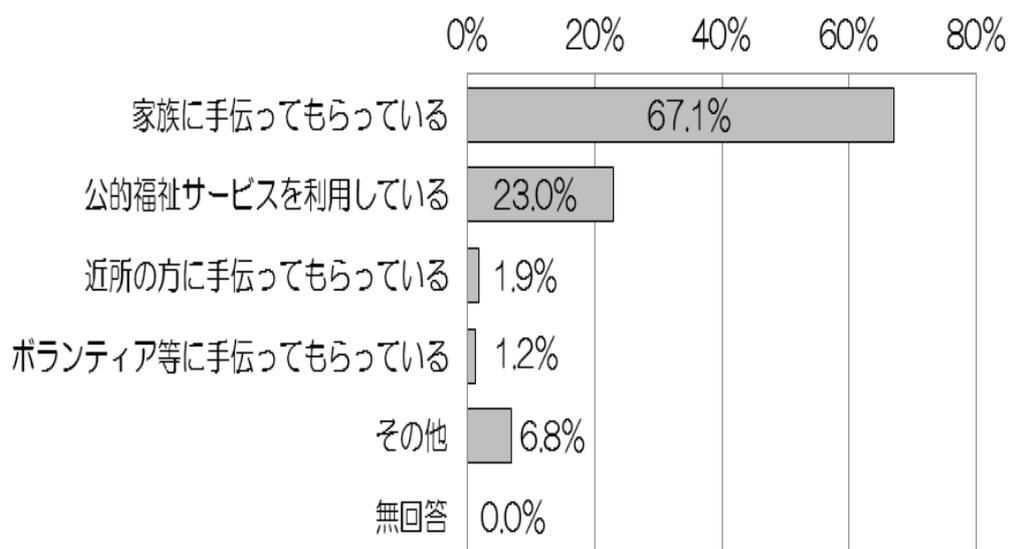
「その方だけでは、解決できない生活課題がある」または「その方だけでは、解決しにくい生活課題がある」と回答された方が全体の2分の1を超えています。

なお、前回調査では「自分だけではできない・できにくいことがある」と回答した方が11.3%となっており、今回調査でのこうした割合が急激に増加しています。

《参考》 前回調査回答（問 12）



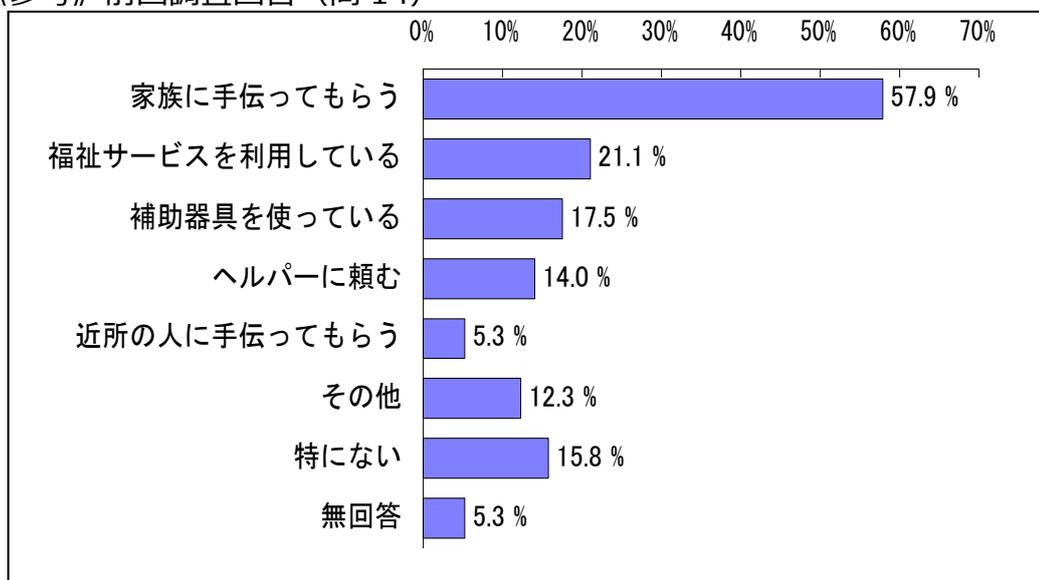
問 14 生活課題の解決に向け、どのような方法をとられていますか。あてはまる  
ところ（全て）をお答えください。



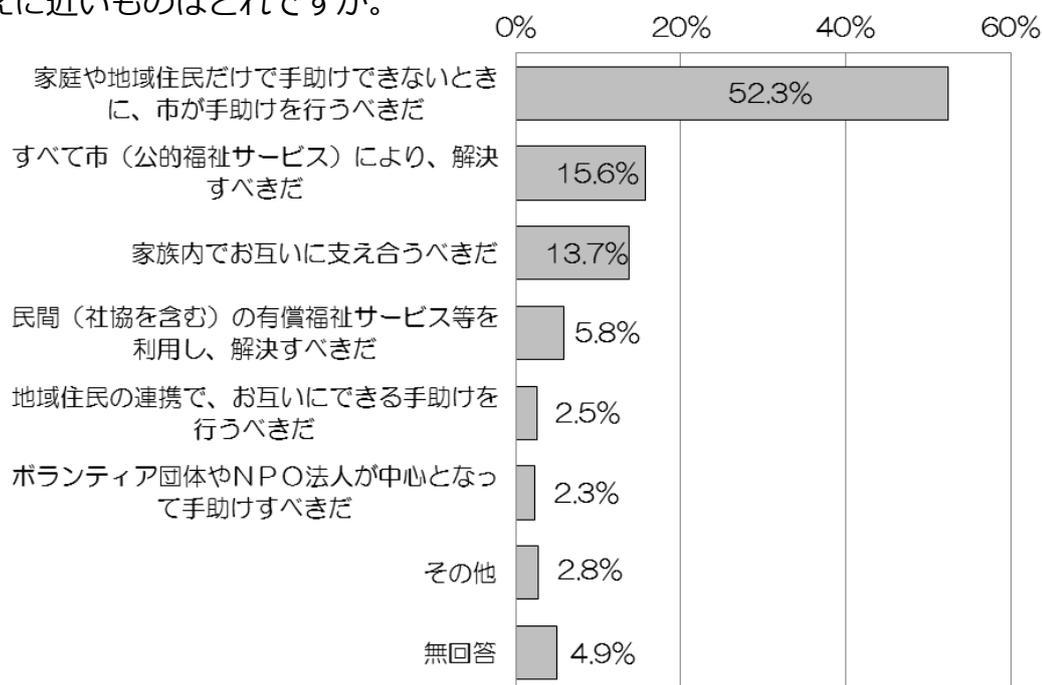
「家族に手伝ってもらっている」(67.1%) がもっとも高く、次いで「公的福祉サービスを利用している」(23.0%) となっています。

前回調査でも「家族に手伝ってもらう」がもっとも高く、家族による支援の大きさが伺えます。

《参考》 前回調査回答（問 14）



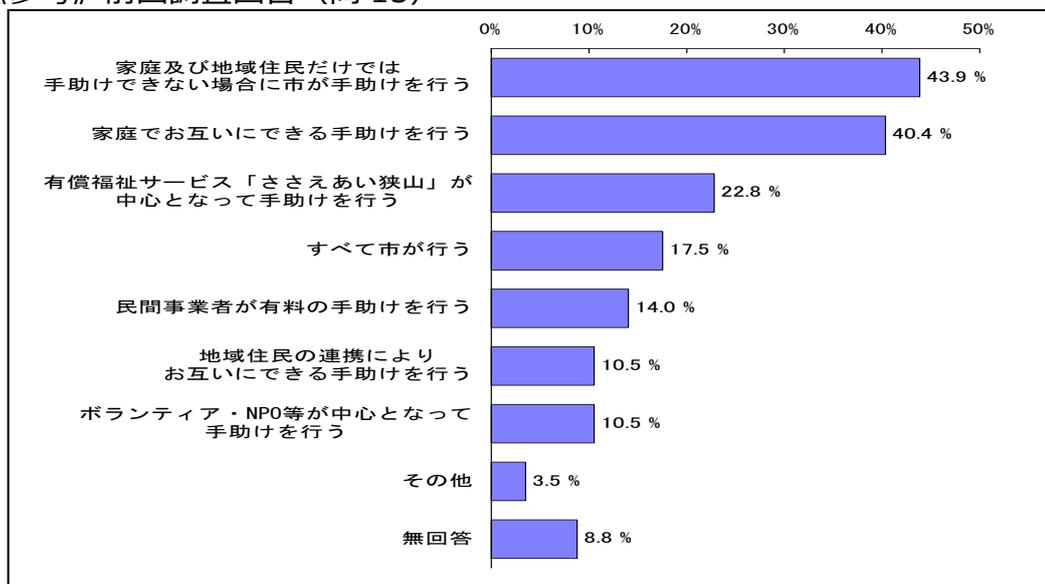
問 15 本来、生活課題を解決するための「望ましい姿」について、あなたの考えに近いものはどれですか。



「家庭や地域住民だけで手助けできないときに、市が手助けを行うべきだ」（55.1%）がもっとも高く、次いで「すべて市（公的福祉サービス）により、解決すべきだ」（16.5%）となっています。

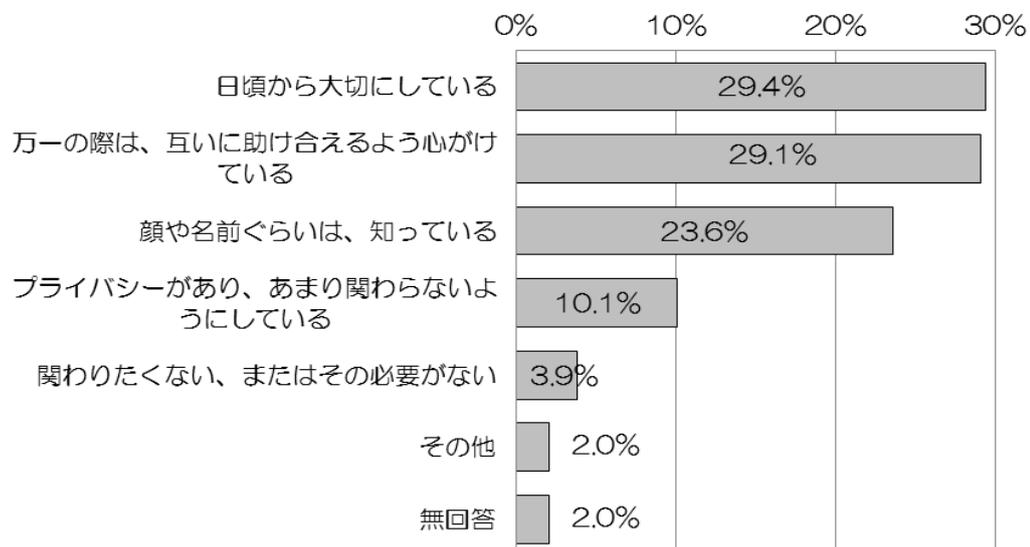
前回調査では「家庭及び地域住民だけで手助けできないときに、市が手助けを行う」がもっとも高く、次いで「家庭でお互いのできる手助けを行う」となっていました。

《参考》 前回調査回答（問 15）



#### (4) ご近所づきあいや自治会活動に関すること

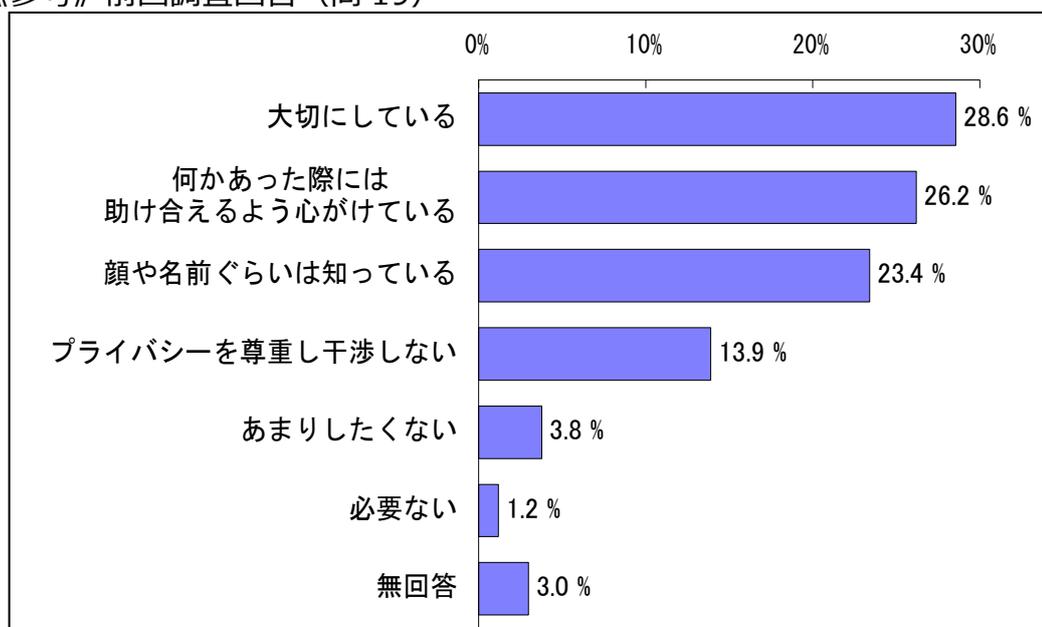
問 16 「ご近所づきあい」について、あなたの考えに近いものはどれですか。



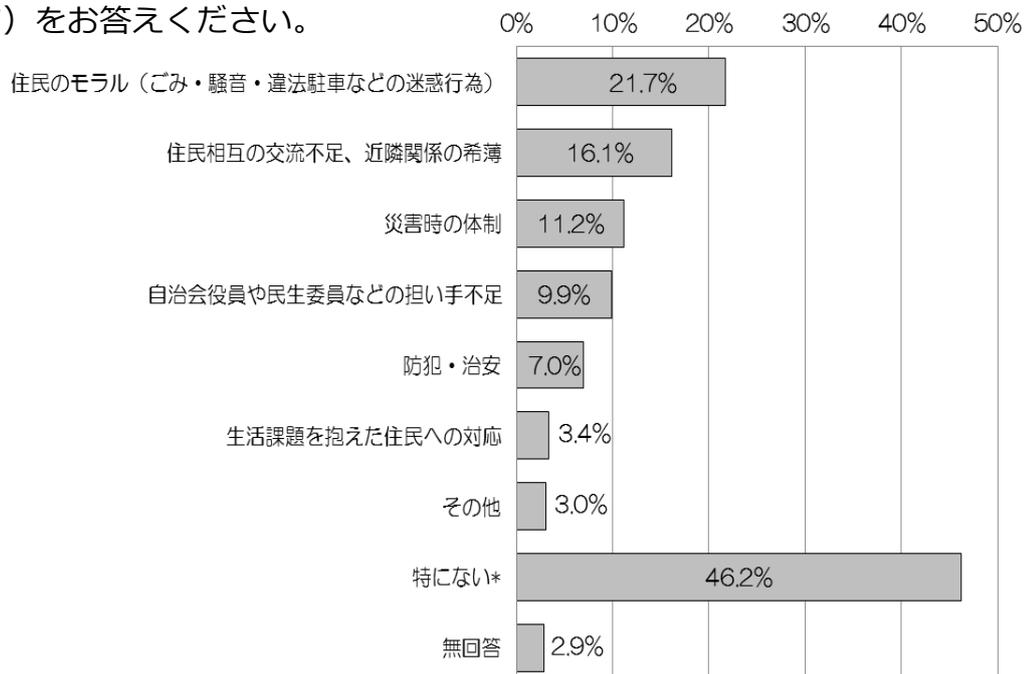
「日頃から大切にしている」(29.9%)、「万一の際は、互いに助け合えるよう心がけている」(29.7%)が高く、次いで「顔や名前ぐらいは、知っている」(24.0%)となっています。

なお、前回調査でも同様の上位回答となっています。

《参考》 前回調査回答 (問 19)



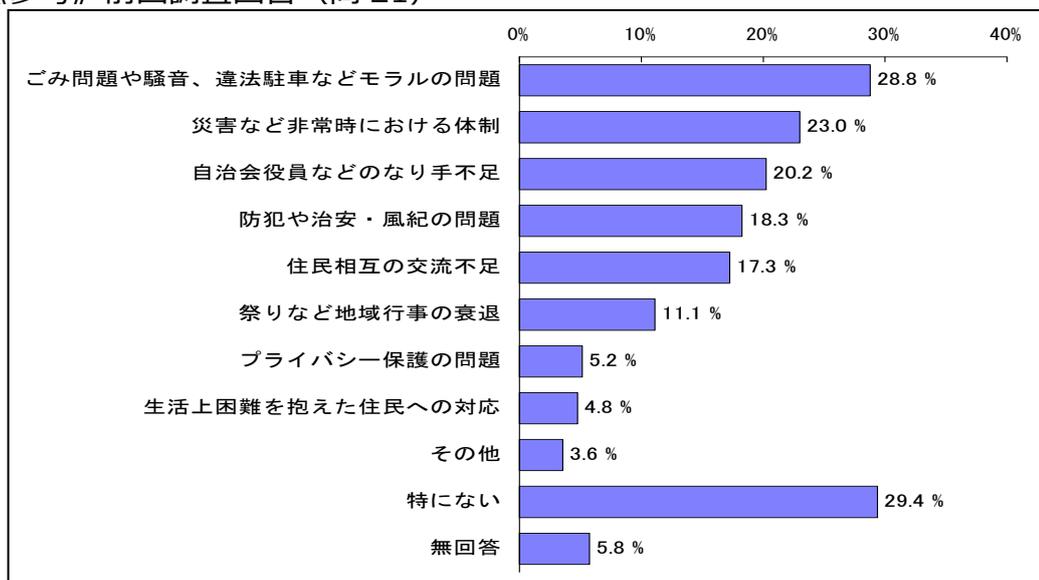
問 17 ご近所に関して、どのような困り事がありますか。あてはまるところ(全て)をお答えください。



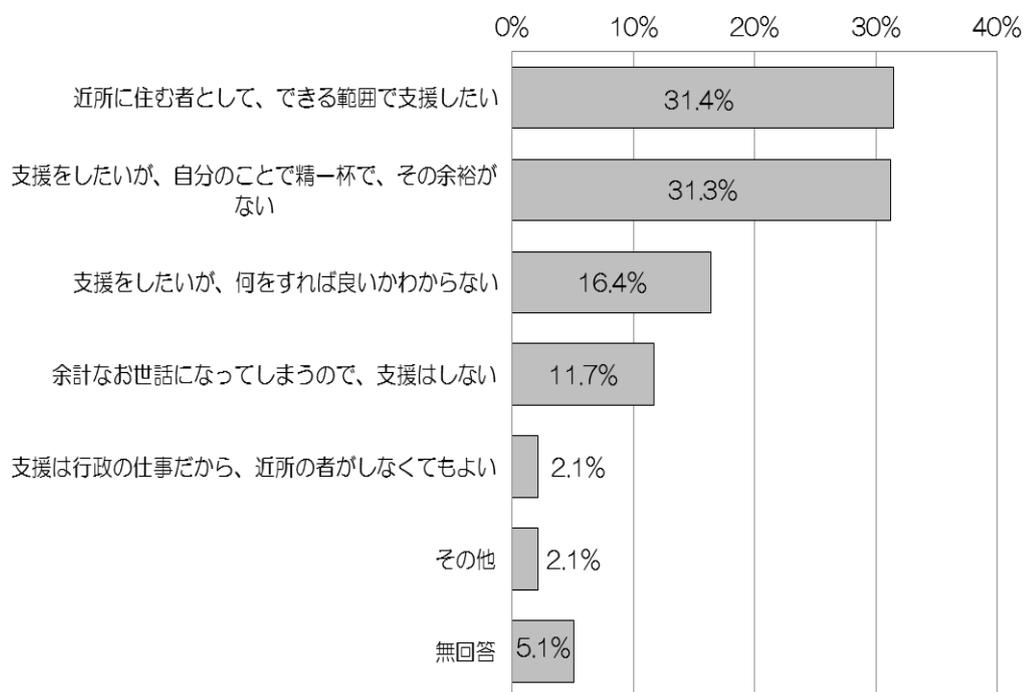
「住民のモラル(ごみ・騒音・違法駐車などの迷惑行為)」(21.7%)がもっとも高く、次いで「住民相互の交流不足・近隣関係の希薄」(16.1%)、「災害時の体制」(11.2%)となっています。

なお、前回調査では、「ごみ問題や騒音、違法駐車等モラルの問題」、「災害等非常時における体制」、「自治会役員等のなり手不足」の順となっています。東日本大震災を契機に、住民相互の交流の必要性が意識された可能性があります。

《参考》 前回調査回答(問 21)



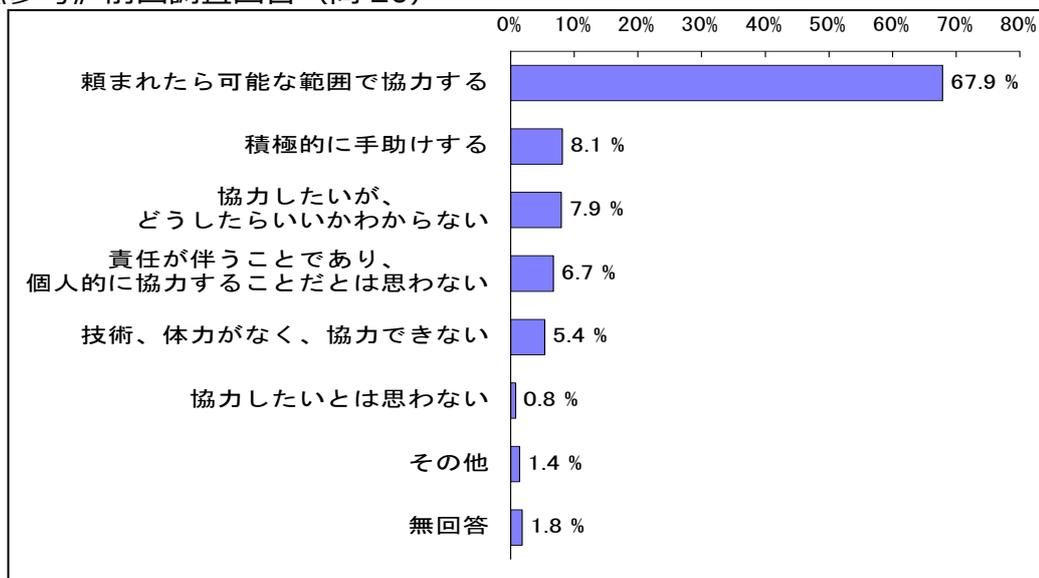
問 18 仮に、ご近所で身の回りのことや家事等に課題を抱える方がいた場合の解決方法について、あなたの考えに近いものはどれですか。



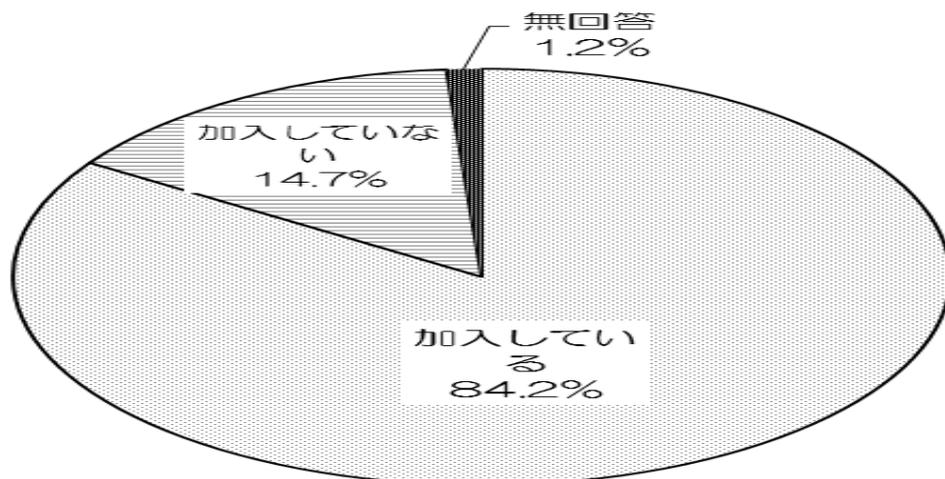
「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」（33.1%）がもっとも高く、次いで「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」（32.9%）となっています。何らかの形で「支援をしたい」と考えている方が、80%余りに達しています。

なお、前回調査では、「頼まれたら可能な範囲で協力する」がもっとも高くなっています。

《参考》 前回調査回答（問 20）

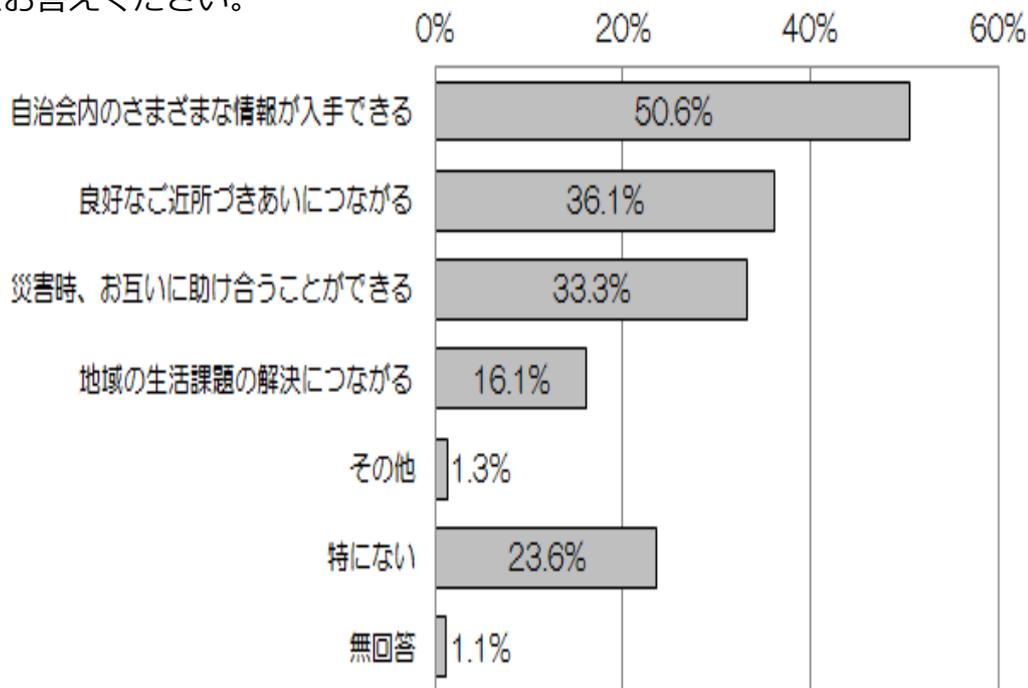


問 19 自治会に加入していますか。



自治会に加入していると回答された方は全体の 84.2%となっています。

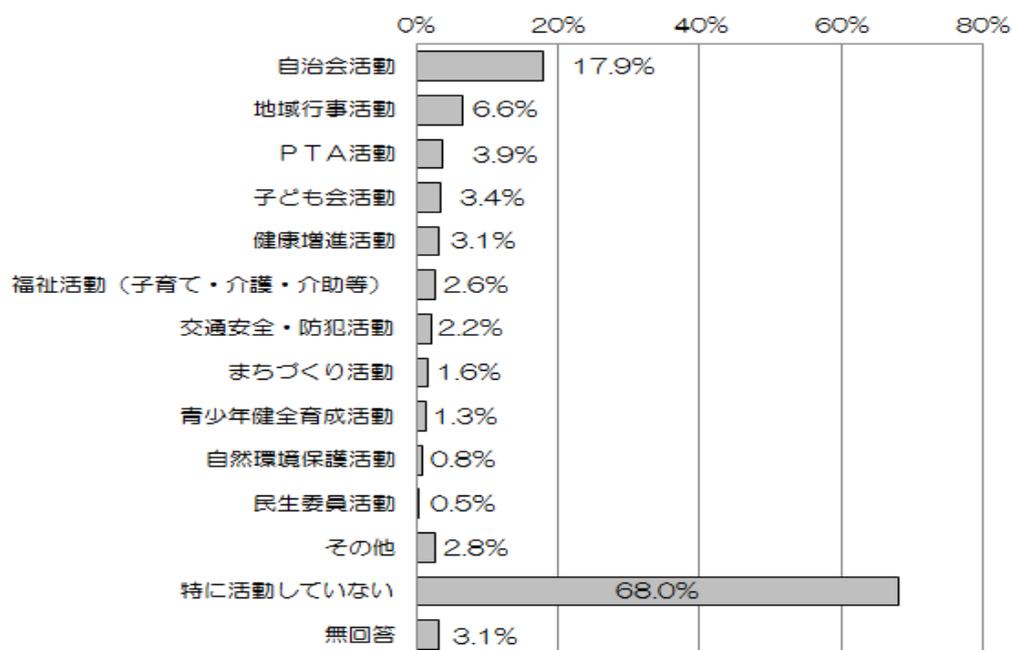
問 20 自治会に加入して良かったことは何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



自治会に加入して良かったこととしては「自治会内のさまざまな情報が入手できる」(50.6%)がもっとも高く、次いで「良好なご近所づきあいにつながる」(36.1%)、「災害時、お互いに助け合うことができる」(33.3%)となっています。

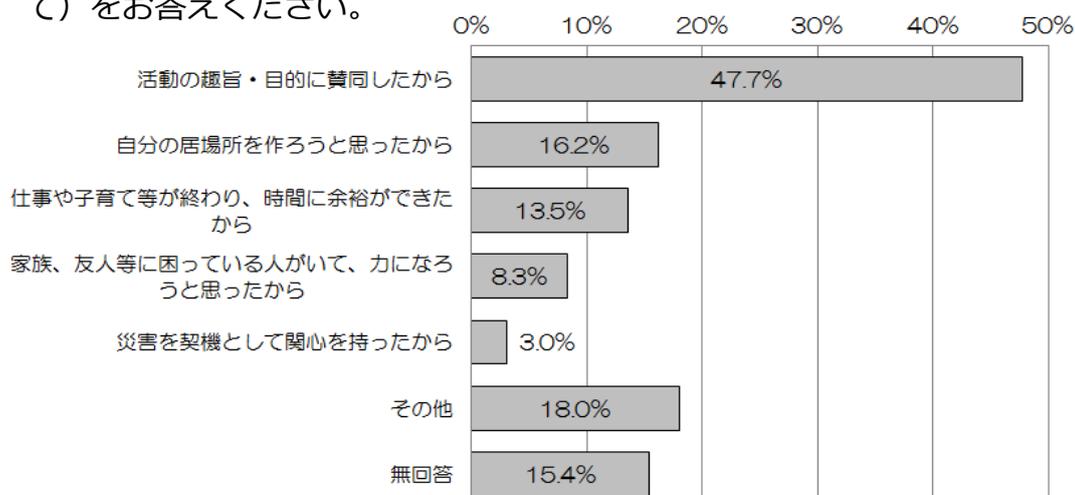
## (5) 地域活動に関すること

問 21 あなたは現在、地域のつながりや支え合いを高めるような活動（地域活動）をされていますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



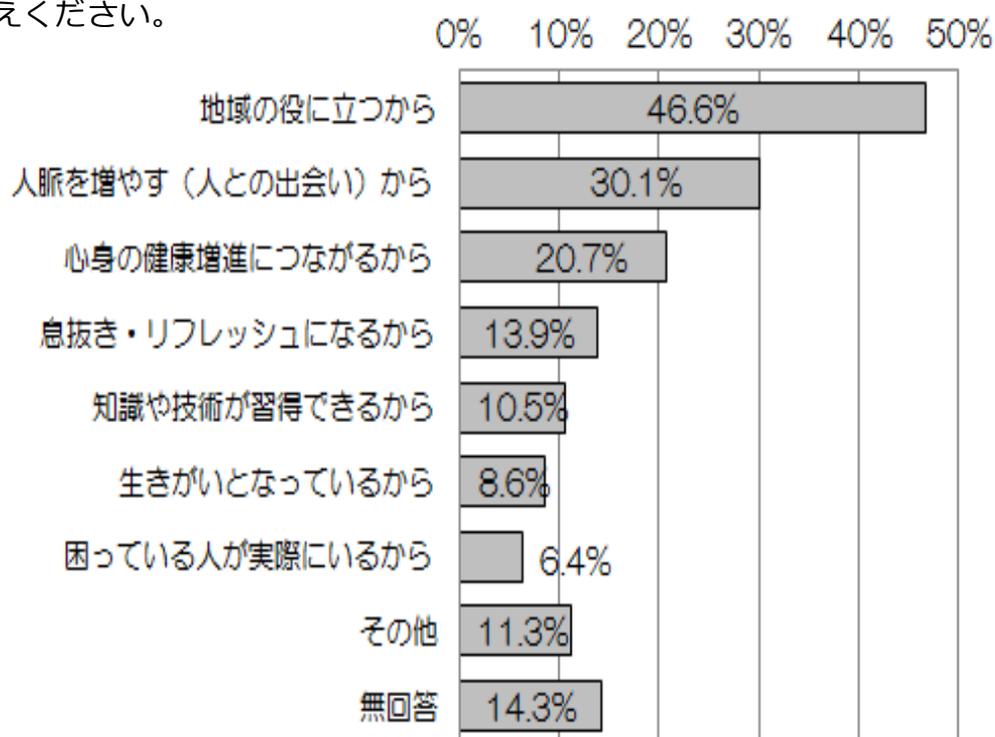
「自治会活動」（17.9%）がもっとも高く、次いで「地域行事活動」（6.6%）、「PTA活動」（3.9%）、「子ども会活動」（3.4%）となっています。

問 22 地域活動を始めた動機（キッカケ）は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



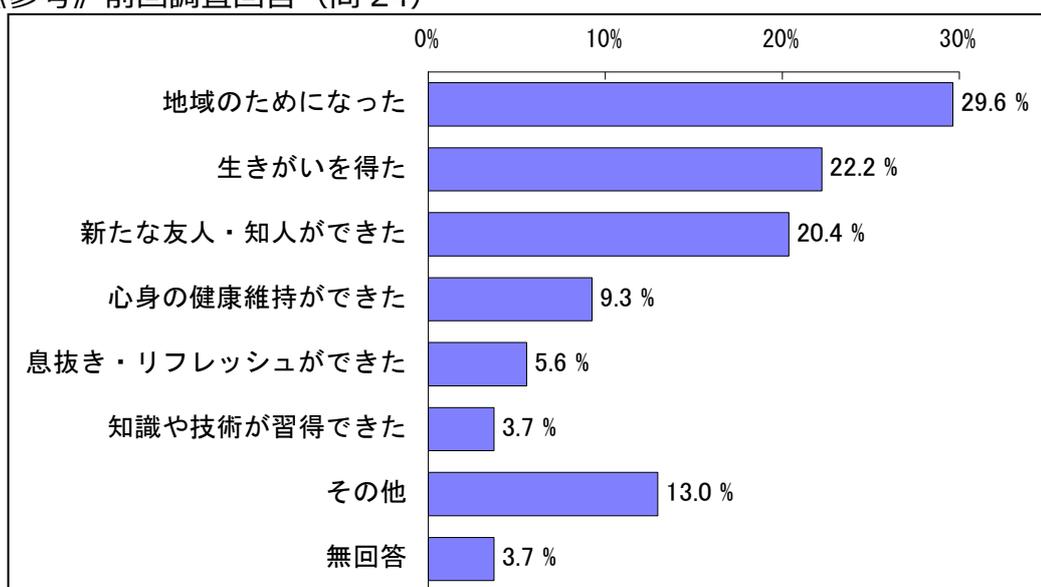
「活動の趣旨・目的に賛同したから」（44.7%）がもっとも高くなっています。

問 23 地域活動を続けている理由は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。

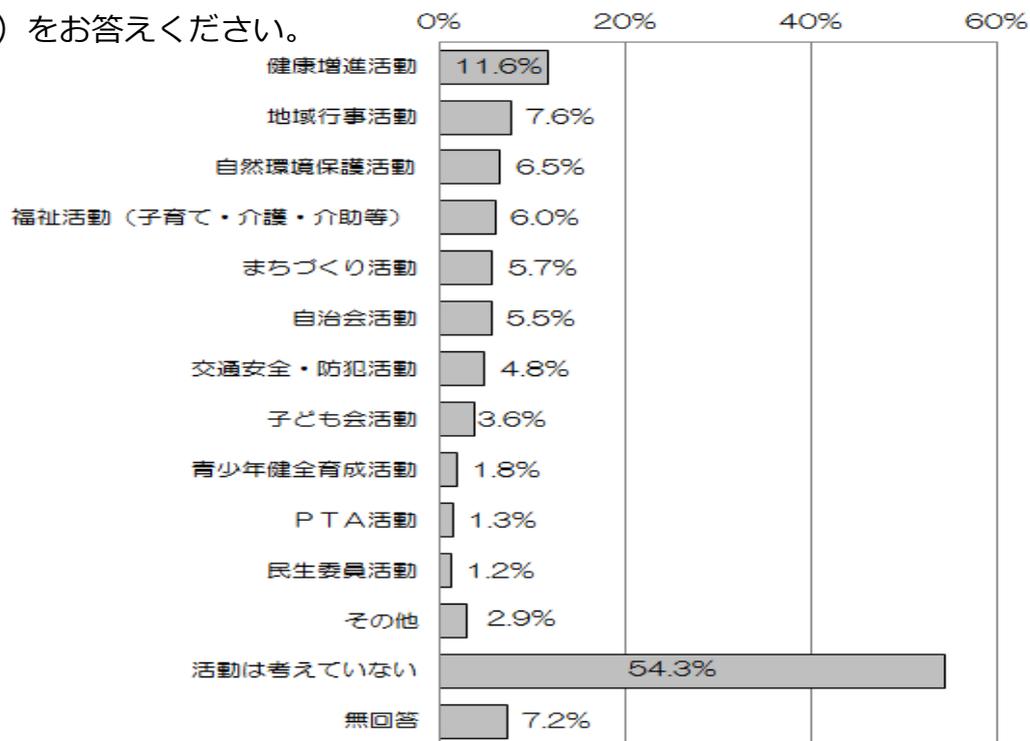


「地域の役に立つから」（31.5%）がもっとも高く、次いで「人脈を増やす（人との出会い）から」（20.3%）となっています。  
 前回調査では「地域のためになった」、「生きがいを得た」、「新たな友人・知人ができた」の順となっています。

《参考》 前回調査回答（問 24）



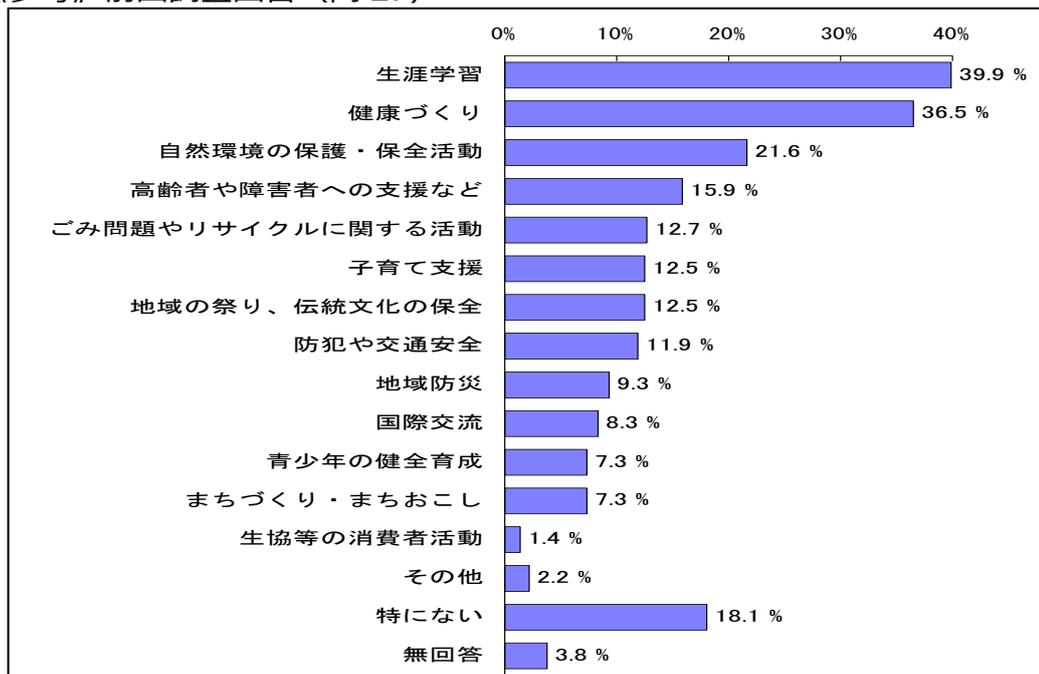
問 24 今後、新たに参加してみたい地域活動は何ですか。あてはまるところ(全て)をお答えください。



「健康増進活動」(11.6%)、「地域行事活動」(7.6%)、「自然環境保護活動」(6.0%)の順となっています。

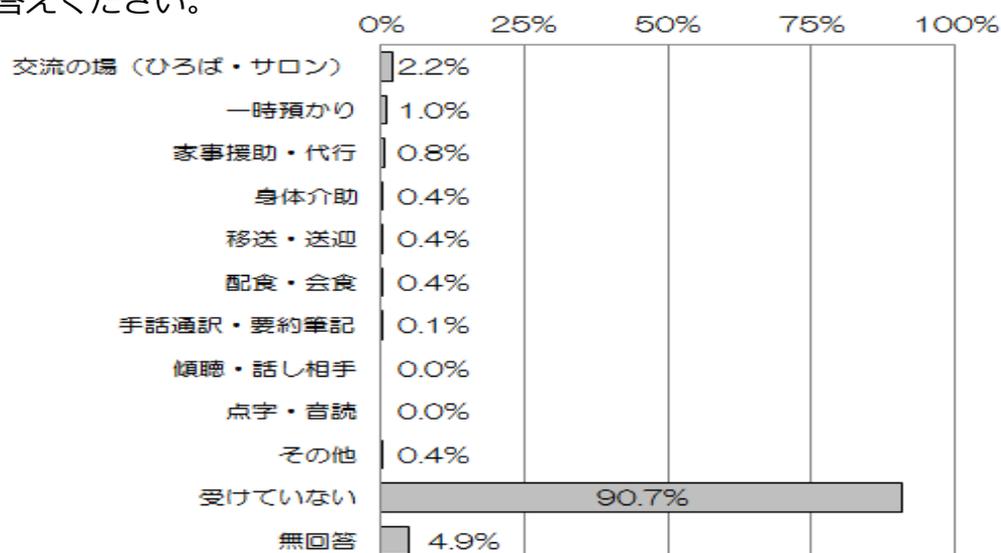
なお、前回調査では「生涯学習」、「健康づくり」、「自然環境の保護・保全活動」の順となっています。

《参考》前回調査回答(問27)



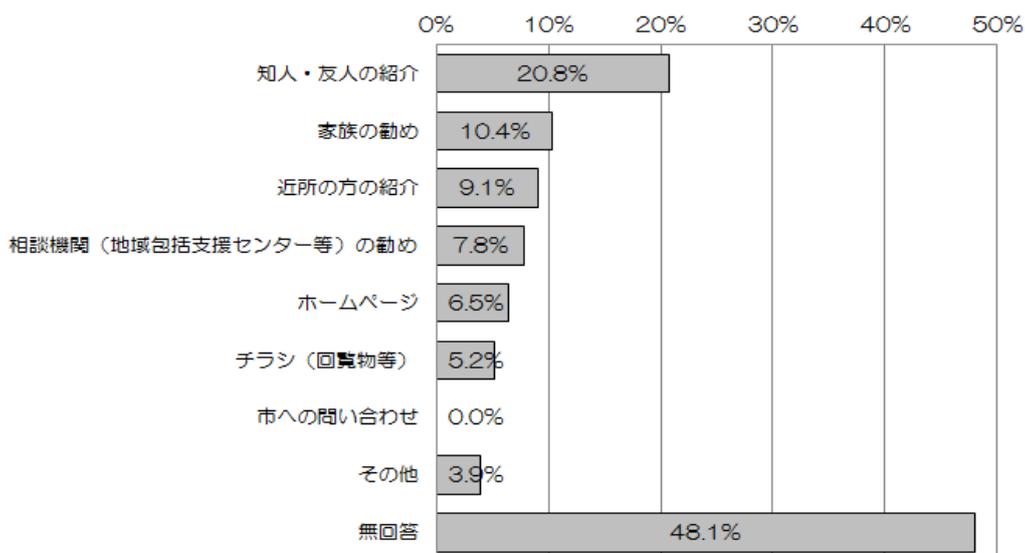
## (6) 地域団体等が行う福祉的活動の利用に関すること

問 25 あなたは現在、地域団体やNPO法人が行うさまざまな福祉的活動のうち、どのようなものを利用されていますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「交流の場（ひろば・サロン）」（2.3%）がもっとも高くなっていますが、総じて低い状況となっています。

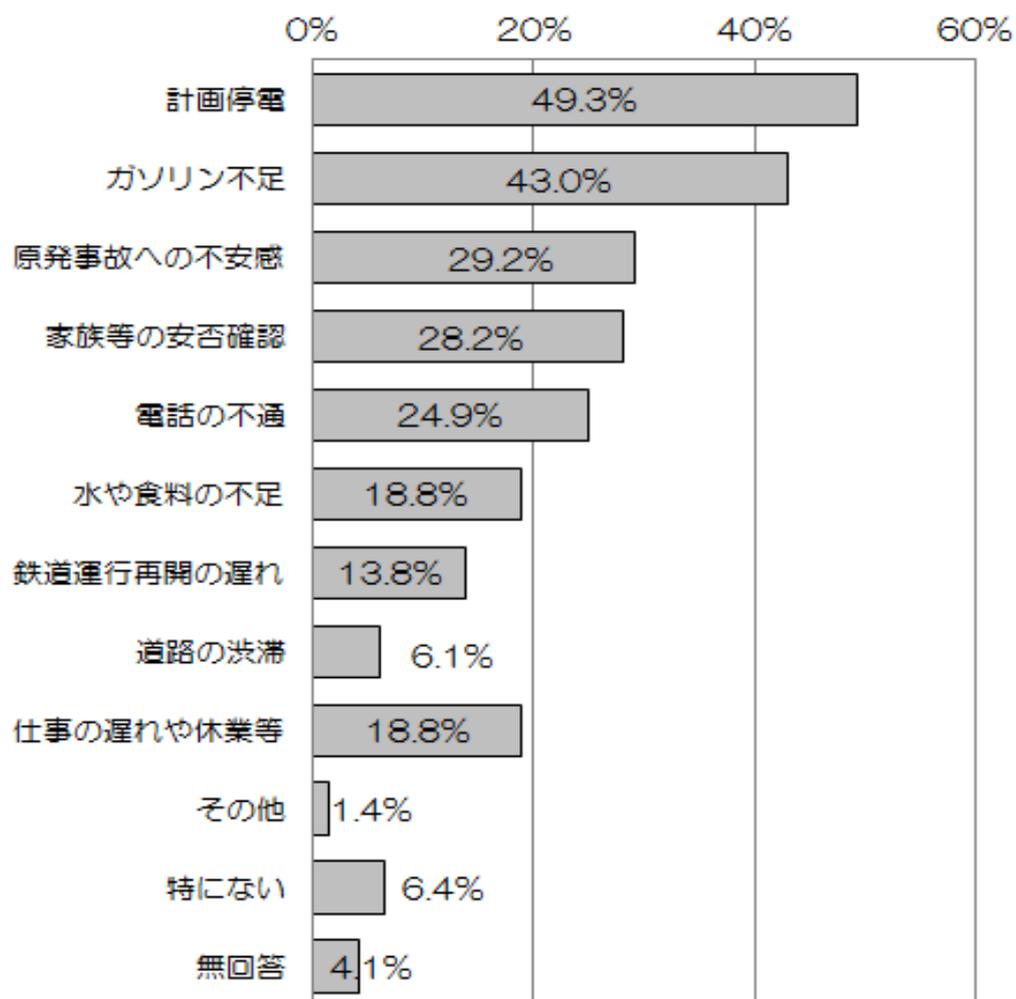
問 26 その活動を利用することになった動機（キッカケ）は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「知人・友人の紹介」（40.0%）がもっとも高く、次いで「家族の勧め」（20.0%）、「近所の方の紹介」（17.5%）となっています。

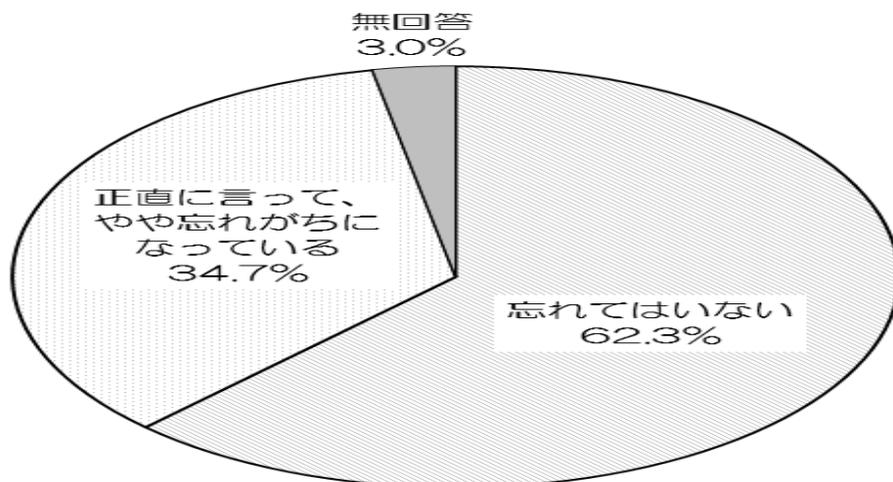
## (7) 震災を契機とした今後の活動に関すること

問 27 東日本大震災の発生直後において、あなた自身が特に困ったことは、何ですか。あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。



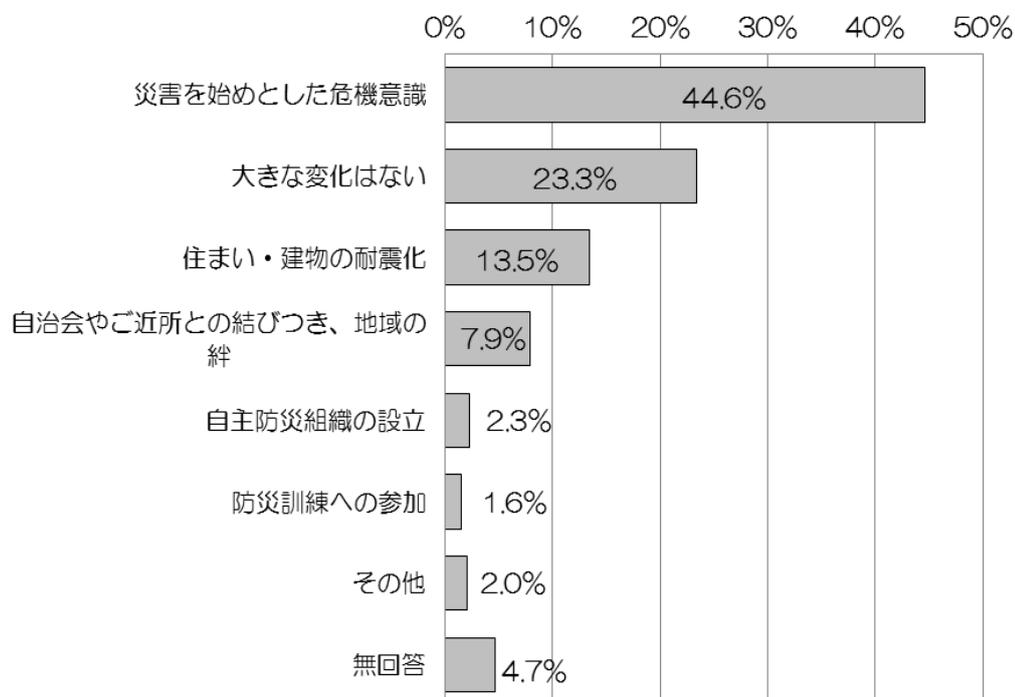
「計画停電」（49.3%）がもっとも高く、次いで「ガソリン不足」（43.0%）、「原発事故への不安感」（29.2%）となっています。

問 28 震災直後の記憶が、忘れがちになっていると思いますか



「忘れてはいない」と回答された方が3分の2近くとなる一方、「やや忘れがちになっている」と回答された方が3分の1余りとなっています。

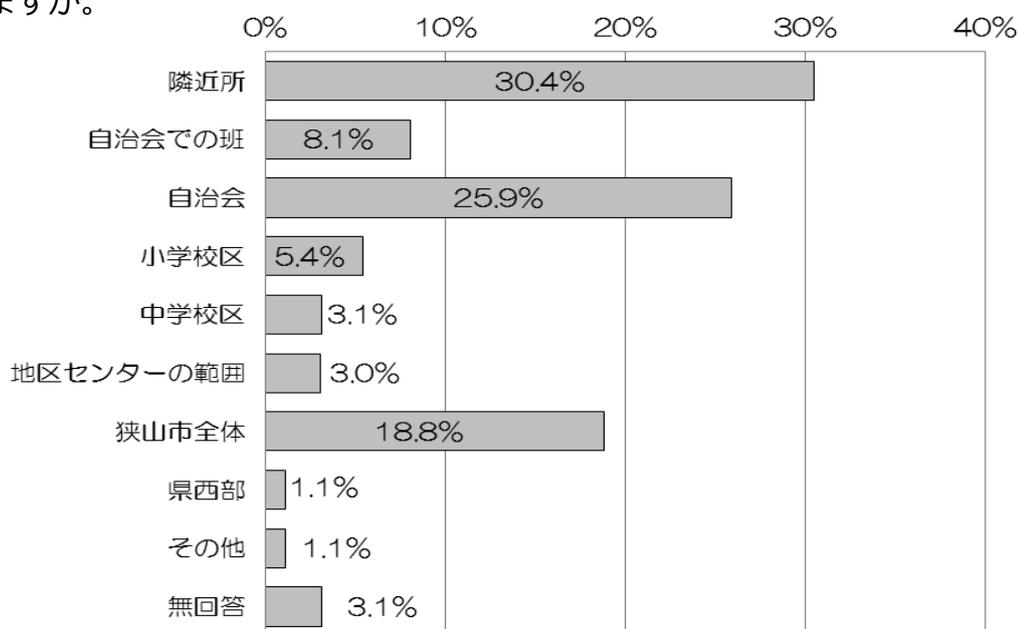
問 29 あなたは、震災が発生する「前」と「後」とを比べ、価値観や意識が最も大きく変わったことは何ですか。



「災害を始めとした危機意識」(46.8%)がもっとも高く、次いで「大きな変化はない」(24.5%)、「住まい・建物の耐震化」(14.1%)となっています。

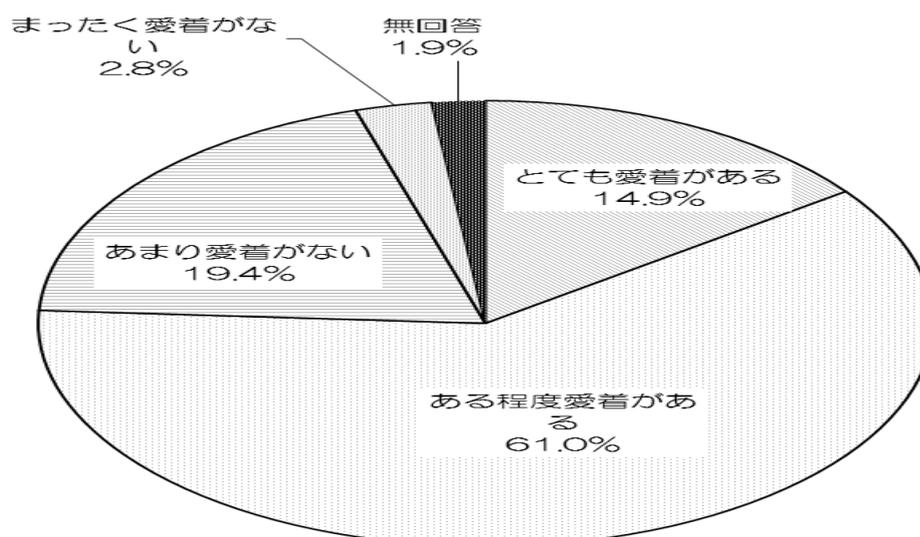
## (8) 身近に感じる地域に関すること

問 30 あなたにとって身近に感じる「地域」とは、どのような範囲ととらえていますか。



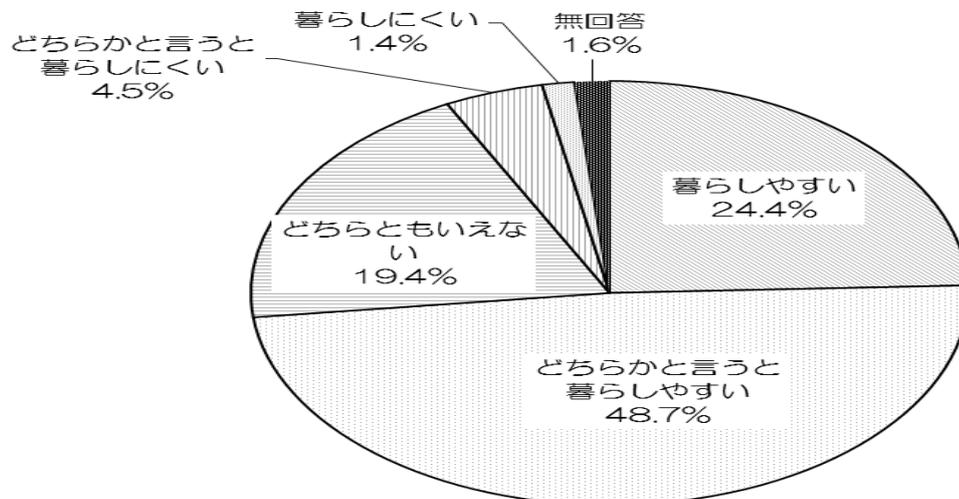
「隣近所」(31.4%) がもっとも高く、次いで「自治会」(26.7%)、「狭山市全体」(19.4%) となっています。

問 31 「地域」に対する愛着がありますか



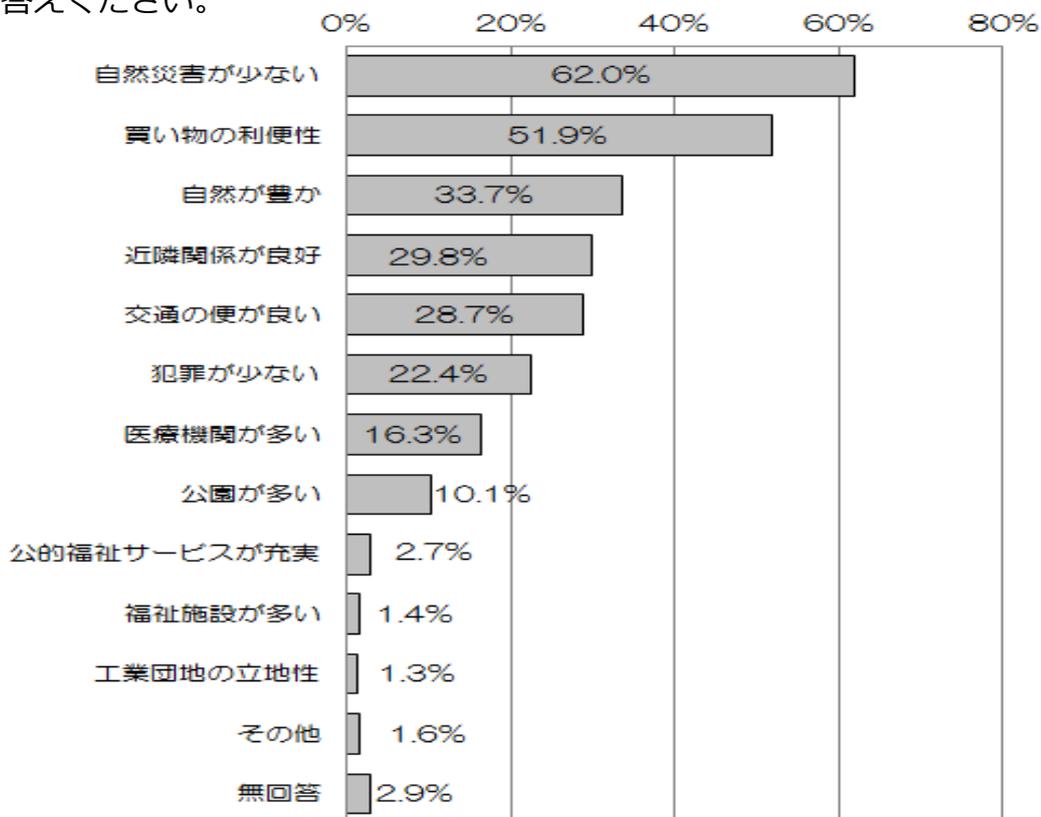
「とても愛着がある」「ある程度愛着がある」と回答された方が、全体の75.9%となっています。

問 32 あなたにとって「地域」は暮らしやすいですか



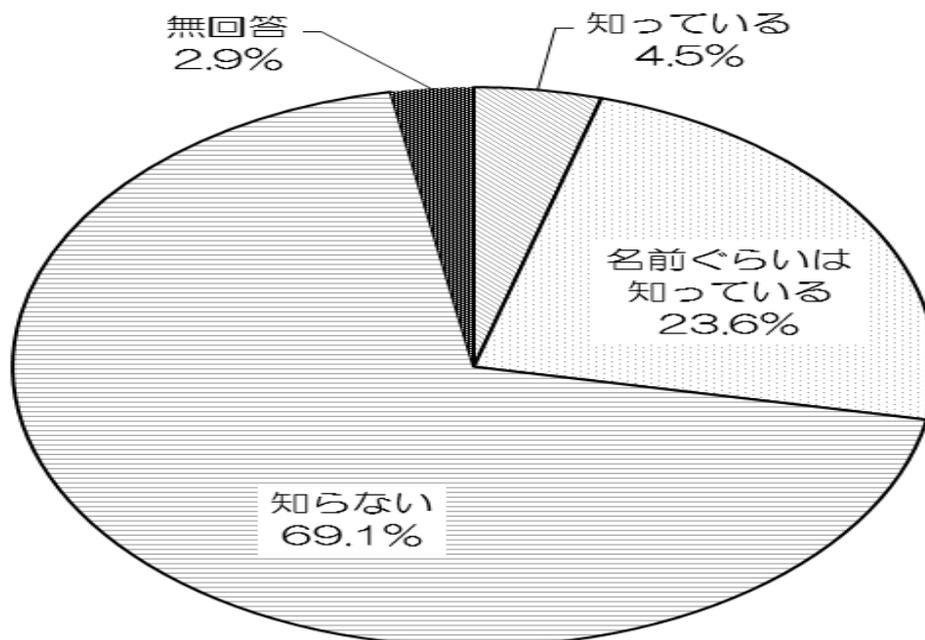
「暮らしやすい」「どちらかと言うと暮らしやすい」と回答された方が全体の73.1%となっています。

問 33 暮らしやすいと思う理由は何ですか。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



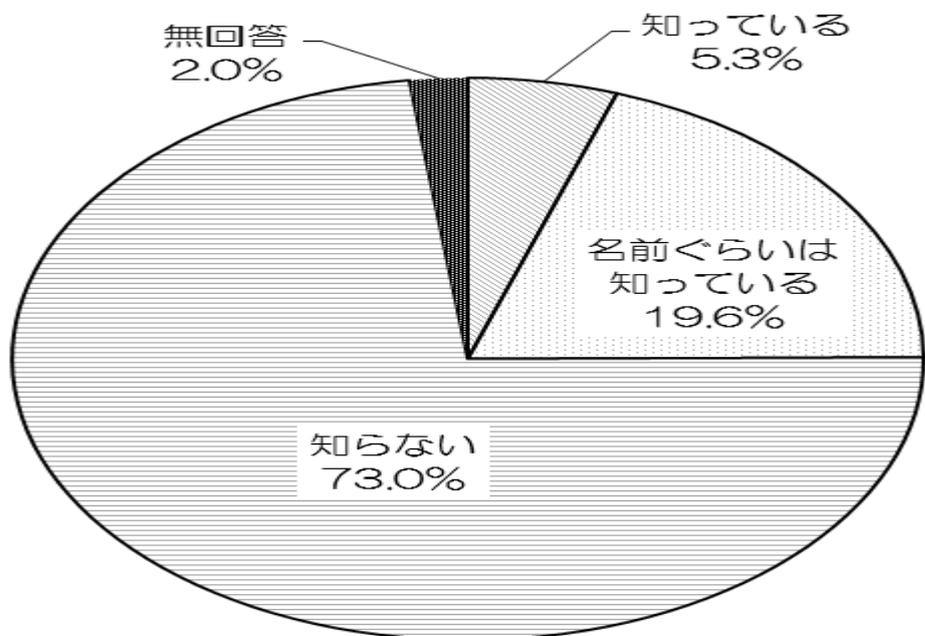
「自然災害が少ない」(46.3%) がもっとも高く、次いで「買い物の利便性」(38.7%)、「自然が豊か」(25.2%) となっています。

問 34 市が策定した「狭山市地域福祉計画」を知っていますか。



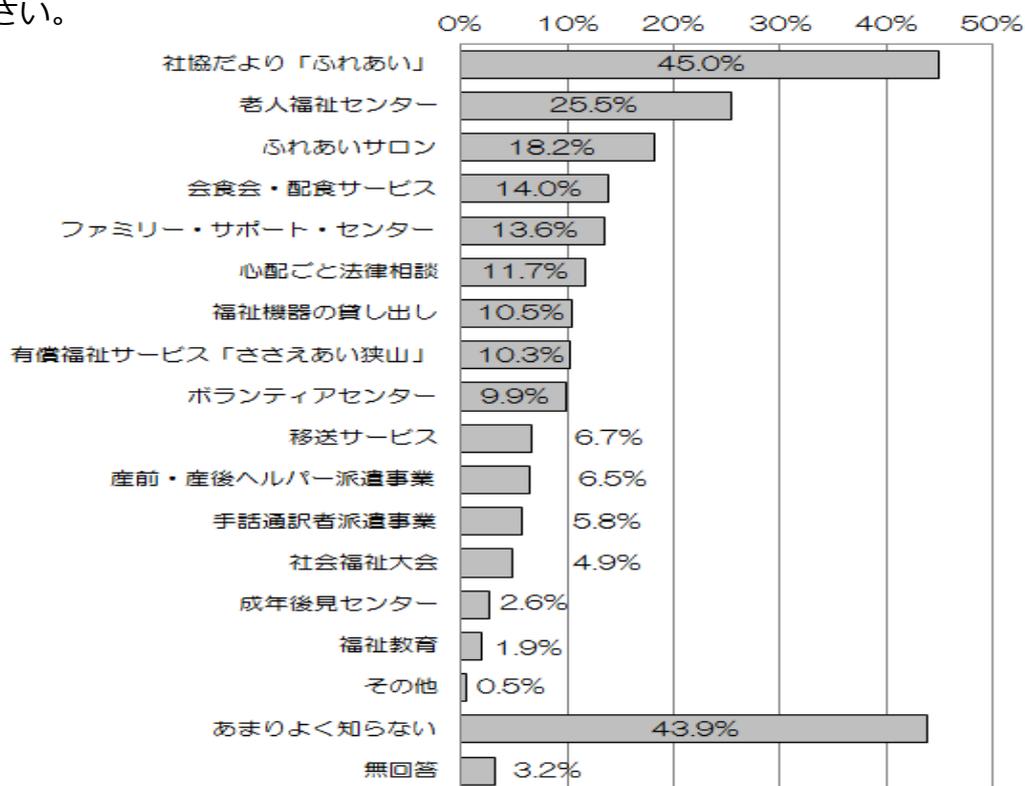
「知っている」「名前ぐらいは知っている」と回答された方が全体の28.1%となっています。

問 35 狭山市社会福祉協議会が策定した「狭山市地域福祉活動計画」を知っていますか。



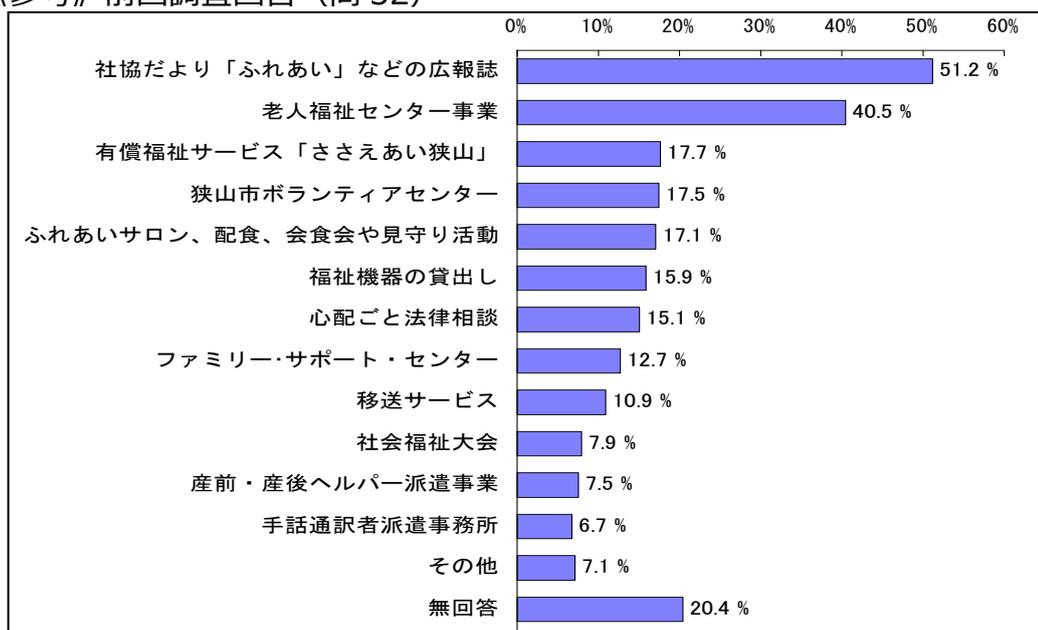
「知っている」「名前ぐらいは知っている」と回答された方が全体の24.9%となっています。

問 36 狭山市社会福祉協議会が行っている各種事業・サービスのうち、あなたが知っているものを教えてください。あてはまるどころ（全て）をお答えください。

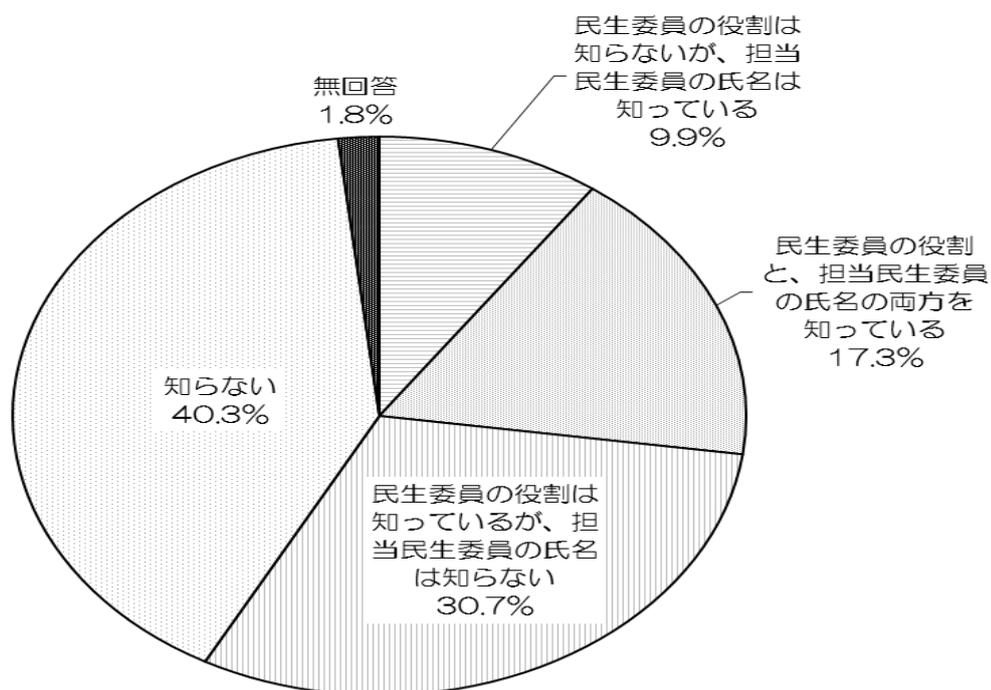


「社協だより「ふれあい」(45.0%) がもっとも高く、次いで「老人福祉センター」(25.5%) となっています。  
 なお、前回調査でも同様の傾向となっています。

《参考》 前回調査回答 (問 32)



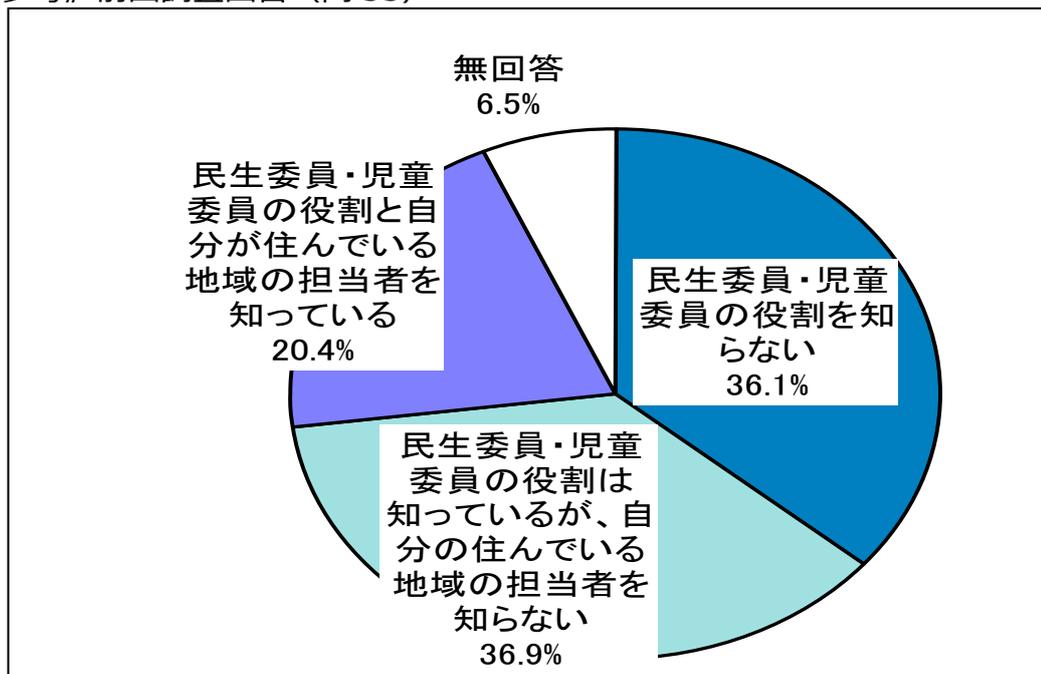
問 37 あなたは、民生委員の役割や担当民生委員の氏名を知っていますか



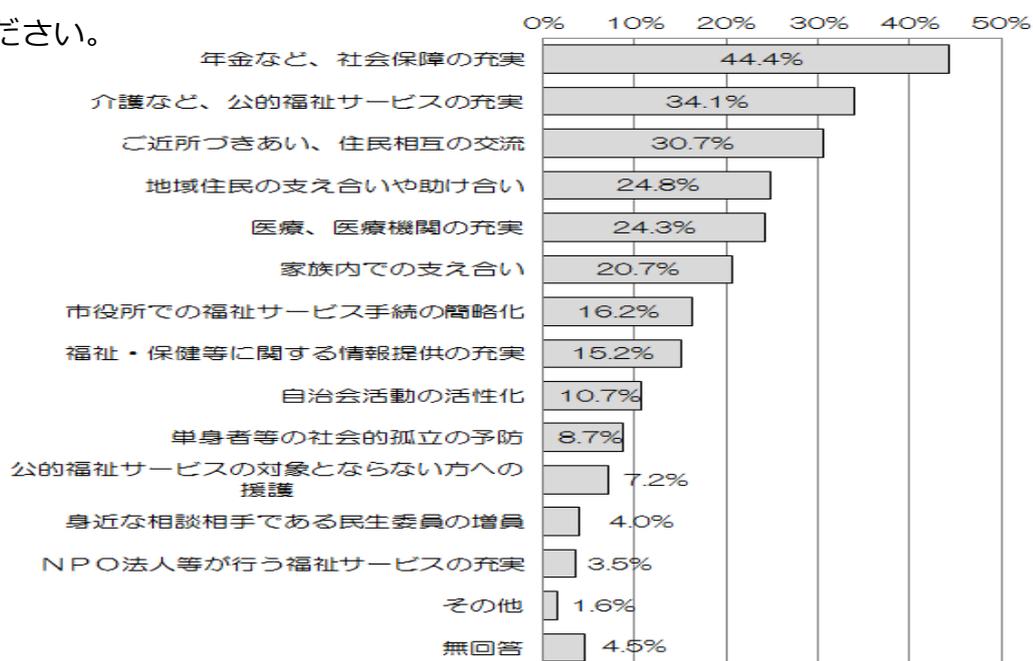
「民生委員の役割と担当民生委員の氏名の両方を知っている」と回答された方は全体の 17.3% となっています。

なお、前回調査では「民生委員・児童委員の役割と自分が住んでいる地域の担当者を知っている」と回答された方は全体の 20.4% となっており、前回調査から微減しています。

《参考》 前回調査回答（問 33）



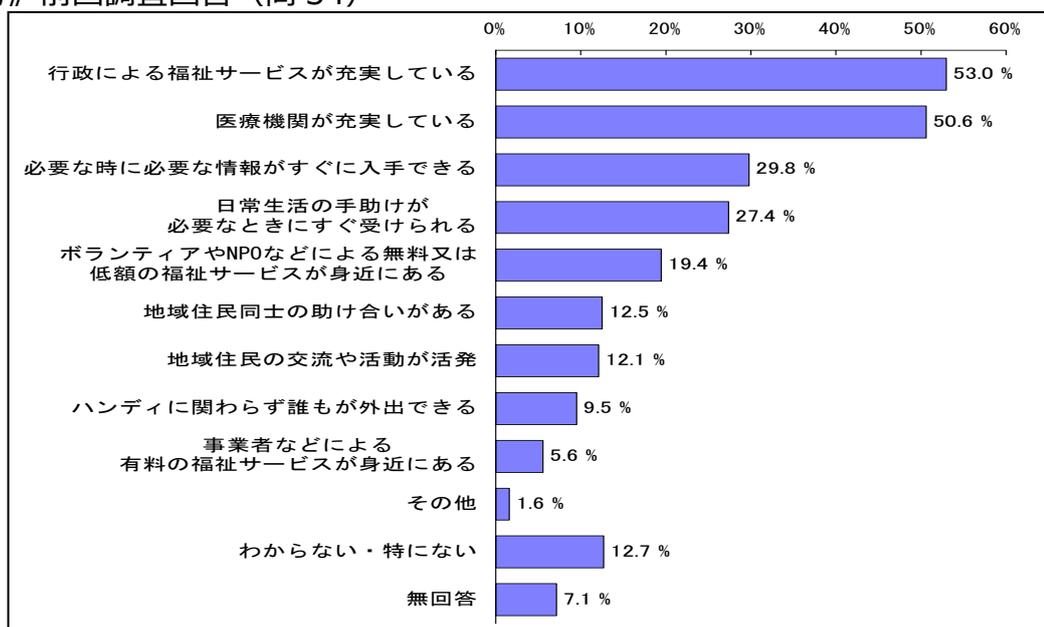
問 38 暮らしやすい地域にするためには、地域のあり方や福祉サービスをどのようにしていくことが必要ですか。あてはまるどころ（3つ以内）をお答えください。



「年金など社会保障の充実」(44.4%) がもっとも高く、次いで「介護など、公的福祉サービスの充実」(34.1%)、「ご近所づきあい、住民相互の交流」(30.7%) となっています。

なお、前回調査では「行政による福祉サービスが充実している」、「医療機関が充実している」、「必要な時に必要な情報がすぐに入手できる」の順となっています。前回に比べ、「ご近所づきあい、住民相互の交流」や「地域住民の支え合いや助け合い」といった回答が増えています。

《参考》 前回調査回答 (問 34)



## (9) 自由意見

問 39 その他、「地域のつながりと支え合い」を高めていくためのご意見や、ご提案等がありましたら、ぜひご記入ください。また、東日本大震災を契機として、日頃の生活の中で、「地域のつながりと支え合いについての必要性」や「地域のかで助かったことのエピソード」等がありましたら、差し支えない範囲でご記入ください。

### 主な意見

- 何とかしなくてはと思っても、リーダーが不在。
- ちょっとしたことを頼める関係がとても大事である。
- 何か、近所づきあいのきっかけがあると良い。
- 福祉のことを学べる場を設けてほしい。
- どこに連絡をすれば情報が得られるのか分からない。
- もっと地域に宣伝し、知ってもらうことが大切。また、地域の情報も発信してほしい。
- 情報の入手方法が分からない。
- 快適に暮らしていくためには、自治会への参加が大切である。
- 自治会や民生委員等、地区や担当者間で格差があるので、水準を揃える必要がある。今後の活動に支障がでるのではないか。
- 小中学校の登下校時のボランティアによる見守りは、大変ありがたい。
- 東日本大震災を契機に、災害への危機意識や価値観等が変化した。
- 普段からの交流が、震災時の救いとなった。
- 自治会を中心に防災組織を作ること、安心した生活ができるようになってほしい。
- 実際に使える、地域別の防災避難マニュアルがあると助かる。
- 障害者の避難所を設けてほしい。
- 自治会活動や地域行事に、子供から高齢者まで参加することで、大きな家族のようになれば、住んでいて心地よい。
- 若い人が積極的に地域社会に参加できるような社会づくりを考える必要がある。
- 団塊世代による地域社会への協力が得られると良い。
- 地区の集会所などを開放し、気軽に集まれ、交流できる場としてほしい。
- 地域の定期的なバス運行がほしい。

## ① 地域福祉への市民の参加促進に関すること

### ア. 福祉教育の推進

(意見なし)

#### イ. 意識啓発・福祉学習の推進

##### (ア) 地域のつながりと支え合いの必要性

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 昭和62、63年に雑木林を切り開いて建売15軒ができた。全戸とも所帯主は早朝に職場へ出かけ、夜遅く帰ることが多く、顔を合わせる事がなかった。そして自治会の班が編成されても、回覧板を隣のポストに入れるだけで会話がなかった。しかし、今は、<u>全員が定年退職し、家に居ることが多いが、お付き合いがない。何とかしなければと思いつながら、積極的に音頭をとる人もいない。</u>支え合いの必要性を強く感じながら、日々生活している。</li><li>● 今、集合住宅に住んでいます。住宅の方とは挨拶程度はしますが、正直、お名前も分からない状態です。ほとんどの方が表札を付けていません。いざと云う時に、この様な状況で大丈夫かなと不安になりますので、<u>何かご近所付き合いのきっかけがあれば良いな</u>と思います。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 旅行の際には隣の方に一言いえるような、<u>ちょっとしたことを頼めあえる関係が</u>とても大事だと思います。日頃からそうした関係を築き上げていく必要性を感じました。</li><li>● <u>近隣所とのつながりを強くすることで防犯となる。</u>小さなことだが、助け合いをすることで心があたたまる。子供を安心して育てられる。</li><li>● 私は人と接するのが苦手な病をもっています。こんな私でも近所の男の子が挨拶してくれ、私もご近所の人たちにしっかり挨拶ができるようになり、<u>少しでも人から信用され、地域のお手伝いが出来れば</u>と思っています。</li><li>● 地域のつながりと支え合いがお題目になってしまい、訓練の為の集りでは意味がない。地域に<u>困っている人がいたらどう対応するのか、当たり前のこと</u>が出来る人が多いか少ないかだけで、大きく変わってくると思う。</li></ul> |
|---|--|

## (イ) 福祉学習

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 日頃から人との挨拶や対話を大切に考えています。大勢の集合住宅なので、一人でも多くの方と話せたらいいなと思っています。今後は、<u>自治会等で介護保険のしくみや介護予防の指導等の話し合いが年に数回開かれると良い</u>ですね。</li><li>● 今回のアンケートにあたり、<u>いかに福祉のことを知らなかったか</u>と思い知らされました。親の介護は家族間で済ませ、公的福祉サービスを受けたことがなく、それが当然だと思って来ました。しかし、自分たちのことになる、子供は独立し、別に住み、頼るわけにはいきません。これからは、もう少し興味を持って福祉のことも考えて行こうと思います。福祉センターからも、<u>これから利用すべき人々に勉強できる場を設けていただきたい</u>と思います。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 気力、体力も充実しているので、<u>介護ヘルパーの資格を取得して、地域に少しでも貢献したい</u>と思います。市で格安にて講座を計画して頂きたい。</li><li>● 市内で多くの機関・団体が同様の課題で講習、研修会などの催し物を開くが、対象者が広く、多くの人に広げれば良いのに、一部の自治会役員か民生委員など役を受けている人ばかりあてにして参加を求めるのは、時間と金の無駄遣いでは？ もっと広い視野で努力すべきで、人数合わせの依頼はやめて欲しい。<u>どの研修に行っても同じような顔が多い</u>ので。</li></ul> |
|--|--|

## ウ. 企業等の地域福祉活動への参加促進

(意見なし)

## ② 健康で安心して暮らせるしくみづくりに関すること

### ア. 相談支援体制の充実

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 震災と高齢の不安から、母が狭山に引っ越してくる決心をしてくれ、現在住むところを探している。長年1人で暮らしているため、同居より1人で生活したいと希望している。<u>高齢者が安心して住める賃貸住宅はどの様に探したら良いのか、民間よりUR住宅の方が管理の面で良いのかなど、住宅の相談窓口はないものか？</u></li><li>● 2人の子育てしています。介護の仕事をしています。もし、親の介護が必要になったら不安です。<u>共稼ぎをしないと生活</u>➤</li></ul> | <p>ができません、介護をする時間や費用についてとても心配です。家族ばかりに負担がかからない社会を望みます。私も仕事のできる限り、ご家族の役に立てるよう頑張りたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 震災だけではなく、最近は竜巻の被害なども多く発生しています。自分の家が被害に合った時、どこに連絡していいのか(屋根の修理等)、実際にはわかりません。個人的にリフォーム屋さん頼むだけで良いのでしょうか？</li></ul> |
|---|--|

### イ. 情報提供体制の充実

#### (ア) 地域福祉活動者としての視点

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 単身高齢者の情報が個人情報の関係でつかめない。アパートの入居では、自治会に加入していても年会費を不動産屋に払っているのに、回覧は一度も来ない。広報は不動産屋から個別にポストに入るが、それ以外の情報(訃報・開催事など)は全くないので、<u>何が起きているか分からない</u>。アパートに単身で住んでいる高齢者が心配です。<u>賃貸の住宅への情報伝達の方法を考えて下さい。</u></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>暮らしやすい地域社会にするには自治会を通して、住民の交流や助け合いがもっと活発に出来る形にしたい</u>ものです。その具体策の一つとして、自治会情報看板を増設し、住民一人ひとりにもっと自治会情報(日頃の活動内容をPR)を伝えることだと思います。</li><li>● <u>地域福祉活動は参加・利用したいのですが、いまひとつ内容がわからない</u>。どこに行けばいいのかわからず、今はいいとしても、この先不安がある。</li></ul> |
|--|--|

## (イ) 利用者としての視点

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>情報の入手方法がわからず、自分がどのような福祉サービスを受けられるのか、まったく知りません。</u>年金の通知のように、福祉関係も各自に通知してもらえるようになると良いと思います。</li><li>● 狭山市に転入した際、市役所で自治会のパンフレットはいただいたのですが、<u>自分がどこの自治会で、加入するには誰に連絡すればいいのかなどは書かれていませんでした。</u>周りもすべて新築で、近所付き合いもなく、不動産屋に相談して加入したが、自治会長からたっぴり嫌味や罵声を浴びせられた。</li><li>● <u>つながりと支え合いだったら何に対しても情報が大事です。</u>夫婦とも出身地ではなく、しかも賃貸で自治会には条件付きでの加入にて地域のことは良く分かっておらず、何かあったらと不安です。</li><li>● 市役所でも様々なサービスを提供しているのを今回のアンケートで知りましたが、今後、<u>もっと情報提供を充実させてほしい</u>と思いました。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 社協が行っている事業やサービスなど、名前は知っているが、<u>どんなことを行っているか</u>を知らない人が沢山いたり、<u>知っていたら使いたい事業やサービス</u>などを必要な人が使えていないことが沢山あると思うので、<u>もっと地域に宣伝・広告で広め、アピールし、知ってもらうことが大切だ</u>と思います。</li><li>● 狭山の前は都市部在住が多く、防災放送をスピーカーで聞くのは初めてのことで、その便利さに驚きました。子供達に帰る時間を知らせたり、行方不明の方の情報等、安心感がありますが、特に震災後は電力のこと等です。<u>あたりまえのこの様ですが、誰でも受けられる支え合い</u>として、これからもお願いします。</li><li>● 狭山ケーブルテレビを活用して<u>もっと地域の情報を発信してほしい。</u>今のケーブルテレビの内容がもっと充実して、おもしろければ見るようになるし、その中に情報が多ければ、自然と地域への関心も高まる気がする。</li></ul> |
|--|--|

## ウ. 地域での声かけ、見守り活動の推進

### (ア) 自治会

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>普段から顔見知りになっておけるよう、地域活動に関心を払っていただかなければならない</u>と思う。高齢者も多くなり、地域活動に思うように参加出来なかったりしますが、<u>快適に暮らしていくためにも自治会への参加が大切</u>と思います。</li><li>● 市内2ヶ所の自治会で班長をしましたが、<u>地区による活動の違いに驚かされました</u>。地区同士の<u>つながりをもっと持たないと、地区間の格差が出てしまい、自治会活動にも支障が出る気がして心配</u>です。</li><li>● 自治会活動が地域の<u>つながりの重要な働き</u>をしていると十分理解できるが、<u>会長、副会長等、特定の人が結託して行っており、活動がマンネリ化している。私物化がみられる</u>。</li><li>● <u>自治会のない地域ですが、不便はありません</u>。日頃より皆さん良くおしゃべりをします。その<u>会話の中で自分が出来ることをお手伝い</u>しています。近所は<u>単身者、ご夫婦2人の方ばかりで、70才前後の方が多いため、お互い声を掛け合っています</u>。</li><li>● 母が家に居た頃は、<u>近所の方が気をつけてくれて、よく声をかけて貰っていた</u>。入院等で母が居なくなり、<u>近所との交わりも少なくなった</u></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>若い世代の家族は子供の教育や家のことで手一杯</u>です。そんな中での<u>自治会への参加、役員など本音はやりたくない、さけない</u>と思っている。ご近所と円滑に生活をしていきたいので、<u>仕方なくその任期だけ無理をする</u>。都内などでは自治会に入らない若い世代があたりまえだと聞いています。自分が老年期を迎えたら考え方が変わるのかも知れないが、今後10年くらいは本当に「家」が大変な時期なので、<u>その他のことは避けていたいし、関わりたくない</u>と思います。私だけのわがままな考え方なのでしょうが、大部分の方も同じだと思います。ただし、地域の祭りを見た際、若い世代はほとんど居ず、定年を迎えた方のみでの進行に「<u>こんなんでいいのかな?</u>」と思ったりもしています。</li><li>● 今年も自治会（民生委員の方）に敬老会を計画、実施して頂きました。毎年開催本当に有難う御座います。</li><li>● <u>自治会活動などに一人でも多くの人に参加してもらえよう</u>に、そして、それらの人がそれぞれふれあって知り合い、輪と輪が大きな輪となって、限りなく広がっていけば安心できる街になると思います。</li></ul> |
|--|---|

## (イ) 民生委員

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>地域に民生委員の人がどこにいるかもわからない。委員の方も大変だと思いますが、地域を回って何か困っていないか、聞いて回っても良いのではないのでしょうか？別に世間話でも良いと思います。</u></li><li>● <u>民生委員の方々の必ず行う活動の明確さと、民生委員の活動が、その方により多い少ないがかなりあることを他の市で聞きました。狭山市は委員の方全員が、同じ内容を支援出来るよう、市の指導監督を希望します。</u></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>市内に住んでいた母が今年5月に亡くなりました。在宅介護中、ケアマネジャーや訪問看護師に来て頂き、大変良くして頂きました。介護していた父の所に初めて声をかけて下さったのは、民生委員さんでした。初めての介護で何も分からない中、民生委員さんのお話から母に十分な介護が出来ました。</u></li></ul> |
|--|---|

## (ウ) その他

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>子供に関しては地域の方達が声をかけてくれているため、普段そんなに人通りが多くはないが、安心しています。</u></li><li>● <u>ひとり暮らしの高齢者の方には、特にふれあいサロンなどで交流を増していくと、さびしくなくて良いと思います。</u></li><li>● <u>毎朝小中学生の登校時に地域のボランティアの方々が見守り（交通安全・防犯活動）を下さっており、本当にありがたいです。</u></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>仕事で殆んど家に居ない。高齢者が同居しているので心配だが、近くに住む知人や子どもが、時々、様子を見に来てくれる。ボランティアで高齢者を見に来て、外からでも声をかけてくれるとありがたい。</u></li><li>● <u>一人暮らしの高齢者の日常生活を把握しておく必要が増しているが、プライバシー等で難しいと思う。日常生活に苦勞（心身共に）されている人をどう注意して市は見守っていきますか。</u></li></ul> |
|---|---|

## エ. 災害に備えてのつながりづくり

### (ア) 震災を契機としたもの

- 災害、特に大地震時の対応についての危機意識・危機管理のあり方が分からない。避難場所（短期と長期）の認知、避難時の注意点、避難中の火災発生の予防、近隣被災状況の把握、近隣さそい合いの避難活動、火災発生時の協力消火活動の展開、負傷者・病人への支援、救急機関への通報と応急手当。火災予防が最重要課題と思う。
- 震災後、「オール電化マンション」は計画停電中「ただの箱」。寒さが残る中、3か月の子供を抱えながら、心細い毎日を送る私たちに、同じマンション内の方々が近隣の実家に連れてくださったり、時には温かい食事を提供いただいた。その後、マンション全体で防災会議を年一回することになり、災害への危機意識を再確認したりと小規模ながら地域の結束が芽生えている
- 震災後、ものの考え方や今を生きる自分自身の姿勢が大きく変化したと思います。家族との会話が増え、震災に限らず社会で起こっている様々な内容について、話し合える状況が続いています。地域に住む各家族がつながりを持つことにより、共通の話題への理解が深まり、具体的な行動が出来る地域住民となっていくと思います。
- 歩行器具を使わないと歩けない状況ですが、震災の時は家族がいたので安心。一方、家族がいない日中はとても不安。避難にあたり、自治会役員に色々聞いてたが、障害者に対する誘導などは無いように聞いた。家族不在時でも障害者が安心して避難出来るシステムが出来ないか
- ご近所づきあいが良いため、震災時の時もお互いに声をかけあうことができました。普段から交流があることは、こうした時に救いになります。近所づきあいは大切だと思いました。
- 震災時に、タクシーに声をかけあって、地域別にグループで帰宅できたこと。電力不足で電車の途中駅止まり（新所沢）が多く苦労したとき、皆で声をかけ合い、グループでタクシーに乗って帰れた日が数多くありました。ちょっとした工夫と勇気が必要なことがわかりました。
- 実家は気仙沼市で、両親が古くから住んでいる。震災時、一番力になったのは、遠くの私たちよりも、昔からのご近所さん達。互いに気にかけて、支え合い、一番心強かったと話していた。
- 私は震災後「何かをしなれば」、「何かをしたい」と思ったので、ボランティアとして足繁く東北に通っている。

## (イ) 市内避難者

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 東日本大震災の時は親族の避難受入れをしましたが、近所・知人より寝具などをお借りしたり、スーパーの駐車場を使わせて頂いたり、皆様にはご支援頂きました。市の援助で、その後のアパートの斡旋、家賃援助など頂き、狭山市の住みやすさと温かさを実感し、感謝しておりました。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 福島から兄弟たちが避難してきている現在、衣・食・住において大変お世話になっております。いつ帰るかもわからない、すべてが不安の中で頑張っています。これからも宜しくお願いします。</li></ul> |
|---|---|

## (ウ) 自治会

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● どの地域にもいろいろな考え方の人がいると思います。自治会活動をお願いしている方々は、とても大変な思いをされていると思われませんが、一応、<u>自治会という組織を基本として防災についてもしっかりした組織を作っていた</u>だき、<u>住民が安心して生活できるようにして頂きたい</u>と思います。</li><li>● 災害時に地域の連帯は欠かせないと思いますが、リーダーとなる民生委員や自治会役員の担い手がなかなかいない現状だと思います。<u>もしもの時には助け合える隣近所、そして自治会組織であつたら</u>と願っています。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 災害時、自治会単位で集合し、点呼を取ってから避難場所に移動するということを防災訓練の時に初めて知りました。小学生の子供も迎えに行かなければいけない時に、自治会の点呼を待ったりと心配ですので、<u>実際の手順など、いざと云う時の地域別防災避難マニュアルがあれば助かります。</u></li><li>● 障害者のいる家族として、狭山市の<u>防災計画の内容を十分把握できていない</u>。自治会で地域の住民（おとしより、障害者も含めた）の安否確認は必須となるが、<u>まだ弱者に対する心のバリアフリーはとけていないと感じる</u>。一般の方と同じ避難所ではパニックになったりするので、<u>緊急時の為の避難所をぜひ設けて欲しい。</u></li></ul> |
|--|--|

## (エ) その他

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 私達の住んでいるところも、いつ大きな地震が来るか分からない。一応、主人、私もリュックサックの中に水、乾パン、アメ、缶詰、タオルの他、下着類を入れて玄関に近い場所に置いてあります。また、夜は携帯、電池、手提げはいつもあります。小さなラジオも用意して……。</li><li>● <u>災害時の避難場所をもっと分かりやすく、明白に道路等に標示して頂きたい。</u>防災狭山のアナウンスの声は大変聞き取りにくく、いつも何をおっしゃっているのかが伝わりません。</li><li>● 地域の防災訓練は良かった。実際のバケツリレーや、炊き出しなども行って<u>自分たちで出来ることが分かった。</u></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 他の地方都市との文化的、人的交流を継続的に行うのが良い。同じ埼玉県ではなく、相手は東北、東海、近畿など、関東以外の地方自治体である。東日本大震災後の短いボランティア活動を通じて感じたことは、<u>離れた地域同士がいざ災害が発生した時に支援協定があれば、水、食料、救援物資の備蓄の取り崩しなど被災地のために迅速に活かすことが可能となるから。</u></li><li>● 現在5階建てマンションに住んでいますが、<u>大きな震災や問題があった時、助け合えるかどうか全く確信がとれません。</u>所帯数が少ないマンションでも集会の様なものは必要かと思いません。大家さんも同じ所に住んでいますが、何もされないので市役所の職員が中心となり皆に呼びかけて欲しい。</li></ul> |
|---|---|

## オ. からだところの健康増進

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 私の町内会は年末に餅つき大会を行っています。日頃顔を合わせない老人会の方々も参加されて、楽しい一日を過ごします。体育祭やソフトボール大会等を通して、<u>町内会の行事を子供から老人会も一緒に参加し大きな家族みたいです。</u>住んでいて心地良い、住みやすい町内だと思います。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 認知症予防のため、市職員の方がリーダーとなり「歩こう会」を結成、妻も参加し、月1回集まってウォーキングをやっている。<u>健康保持のため、非常に効果的だと思う。</u>ありがとう。</li><li>● <u>精神を病んでいる人たちが、心おきなく自由に出入りできる一室、サークルのような会があるとうれしい。</u>強制ではなくいつでも利用可能な施設。</li></ul> |
|---|--|

### ③ 地域福祉活動を推進するための環境整備

#### ア. ボランティア活動への参加促進

- 強制的というのはいかがでしょうかと思うのですが、必ず全家庭参加してくださいといった行事（作業、奉仕活動等）があると、普段あまり顔を合わせないご近所とも、コミュニケーションをとるきっかけになると思います。それぞれに忙しく、「場を作る」「リーダーシップを示す」など、主体的に動くというのが難しい昨今です。主導してくれる存在があると、住民には助けになると思います。
- あまりべったりとつながると、うまくいかなくなると思う。親切が大きなお世話にならぬよう気を付けたい。私がこうしたのだから相手もこうしてくれるはずだとか、見返りを求めるような考えは持たないといつも心がけています。
- 高齢化の問題、医療や福祉の充実は勿論、若い人達が積極的に地域社会に参加出来るような社会づくりを考えるべき。
- 地域のつながりや支え合いは、皆、重要と考えていますが、近所同士とも挨拶程度の付き合いでは難しいと思います。自治会等を通してボランティアが出来れば良いと考えますが、社会福祉協議会のホームページを見て、ボランティアを募集していることを初めて知りました。
- 地域福祉とは言葉では易しいが、この頃、思い当たったこととして、50代後半から70代前後の人達は各自の趣味の時間を公共施設で楽しんでおられる方が多く見受けられます。頑張って生きてきた半世紀の自分へのご褒美でしょうが、その年代の人達がたとえ2時間位の支え合いでも良いから、各部門をローテーション組んで地域社会に力を供してもらうことも良いのではと考えます。既に多方面でご活躍の方も多くなり、嬉しい限りです。私も80歳になりましたが、母を看取ってから保育園での「おはなしの読み聞かせ」をライフワークとして続けています。
- 自治会、子供会活動に参加していると、子供達も関心を持ち、地域活動へ参加するきっかけになると思います。
- 市内の道路は段差が無くなり、自転車に乗っても、すいすい行かれる様になりました。老人会に入り、一人住まいの方の補助もさせて頂きました。私が今一番大事に思っていることは、障害者の方々へのボランティアで、後5-6年は続けたいと思います。

## イ. 地域福祉活動の場の確保

● 市も高齢化社会になり、地域の行事の参加者も高齢者が目立つ様になりました。各地区の集会所を、もっと気楽に高齢者が孤立しない様に開放し、おしゃべりの場や交流の場（趣味や飲食）として、放課後の子供も交え、大きな意味での昔の家族

の再現でもするようにしないと、只清掃だけをし、保存に努める建物では意味がないと思います。少人数での交流は仲間外れや他人の悪口の温床になるので、出入り自由で同年齢の友人と会える場が良いですね。

## ウ. 地域での取り組み事例や活動の紹介

（意見なし）

#### ④ その他

- 78歳女性。駅に行くのも買い物も25分くらいかかる。茶の花号バスを住宅の中を走らせてもらえると助かる。
- 北入曾に転居し3年。自然豊かで老後の生活に適していると思い、家を建てました。入曾駅は新所沢と狭山市駅の間にあり、地域の定期的なバス運行がなく、毎日の生活に不便を感じています。駅前の再開発も中止になり、不安を感じています。
- 私は北入曾に住んでいます。娘夫婦も近くで暮らしています。昨年孫が生まれて思うことは、近所に子どもが遊ぶ場所が本当に少ないということです。安心して遊べる公園等があれば、地域のつながりにもなると思います。
- 福祉センター不老荘をよく利用しています。季節ごとの催し物などお風呂の他に楽しんでいます。このような施設はとても大切です。
- 老人会に入って、一人住まいの方のお世話をしてきました。亡くなる方、ホームに入る方、ささえあい狭山を利用される方、包括センターの方が来てくれる方、私も年をとって皆さんにお世話になるかも知れませんが、色々見ていると安心して住める街だと思います。
- 所沢市境に在住、自治会も所沢市と一緒に活動。そのため、行事、その他のサービスも違う。狭山住民として高齢化の中、行政施設が離れたところにあり、市役所、社協、その他、直接行くにも何も出来ない状態。食品店も撤退し、日々の買い物に困っている。住民税を納めて35年、市もこの場所に是非注目してくださいようお願いいたします。
- 実質ひとり暮らし。高齢になった時、今のように順番制で自治会班長をやるのが大きな負担に思う。多少の金額を負担しても、やれる人がやるというふうになって貰うと有りがたい。
- 保育園の入園待機を2年しています。本当は仕事をしないと収入が少なく厳しいのですが、保育園は既に働いているお母さん優先なので入れません。預けられることが決まらなければ、仕事先も探せず、面接さえ受けられません。一時保育も問合せしましたが、余裕がないと断られました。来年から近くの幼稚園すらなくなるのも大変です。残る幼稚園には駐車場を造るので送迎に良いと聞きましたが、私は車を持っていません。皆が車を持っている訳ではないので、幼稚園を減らすならスクールバスにして欲しいです。